SONY PCG-868/864/862/861

SONY

3-864-861-**02** (1)

ノートブック コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

VAIO

PCG-868/864/862/861

© 1998 by Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6〜12ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜くまたはバッテリーを取りはずす

❸ VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

- □ 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- □ 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- □ 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- □ 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

⚠危険 ・⚠警告 ・⚠注意 ... 6
こんなことができます ... 13
マニュアルの使いかた ... 15
オンラインマニュアルの使いかた ... 16
各部のなまえ ... 18

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる ... 24
電源を切るには ... 26
再起動するには ... 27
タッチパッドを使う ... 28
キーボードを使う ... 30
文字を入力する ... 32
日本語入力のまえに ... 32
入力のしかたを選ぶ ... 34
文字を入力する ... 35
フロッピーディスクを使う ... 40
フロッピーディスクドライブを取り付ける ... 40
フロッピーディスクを入れる ... 42
データを書き込み禁止にする ... 43
使用できるフロッピーディスク ... 43
CD-ROMを使う ... 45
CD-ROMドライブを取り付ける ... 45
ディスクを入れる ... 46
使用できるディスク ... 48
バッテリーで使う ... 49
バッテリーパックを取り付ける ... 51
セカンドバッテリーパックを取り付ける ... 52
バッテリーを充電する ... 53

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ ... 54
インターネットを楽しむには ... 55
外出先でインターネットにアクセスする ... 56
他の機器とデータをやりとりする ... 59
赤外線（IrDA）でデータをやりとりする ... 59
シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする ... 63
ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする ... 63
PCカードを使ってデータをやりとりする ... 64
音楽CD／ビデオCDを再生する ... 65
Digital Media Parkで音楽CD／ビデオCDを再生する ... 65
CDを長時間聞くには ... 66
いろいろなソフトウェアを使う ... 68

拡張編

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ .. 72
プリンターをつなぐ 76
外部ディスプレイをつなぐ 77
USB機器をつなぐ 79
デジタルスチルカメラを使う 80
外部スピーカー／マイクをつなぐ 83
キーボード／マウスをつなぐ 84
ドッキングステーションに取り付けて使う 84

本体を拡張する

メモリーを増設する 85
PCカードを使う 89

その他

使用上のご注意 94
お手入れ 98
保証書とアフターサービス 99
主な仕様 100
ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする 102
リカバリCDで本機を再セットアップする 104
キーボードショートカット 106
故障かな？と思ったら 109
索引 119

以下の5つの項目については、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルをご覧ください。

- 本機の使用環境を設定する（Sony Notebook Setup）
- バッテリーの消費電力を節約する（PowerPanel）
- バッテリーの残量を確認する（BatteryScope）
- 画面表示の設定を変更する
- タッチパッドを便利に使う（マウスウェア）

オンラインマニュアルを見るには、「オンラインマニュアルの使いかた」（16ページ）をご覧ください。

警告

火災　感電

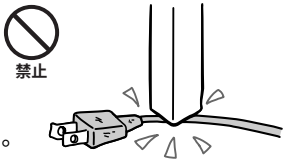
下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。

内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- メモリーを増設するときは、この取扱説明書の「メモリーを増設する」(85ページ) に従って注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となります。

指定のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となることがあります。

モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。
特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

⚠警告 下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

接続するときは電源を切る

電源コードや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。

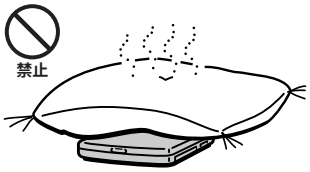
指定された電源コードや接続ケーブルを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

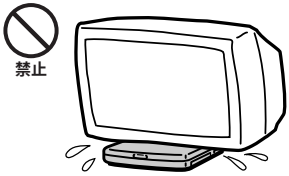
⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

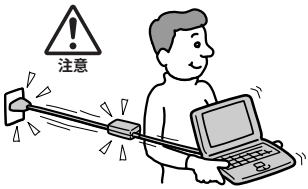


お手入れの際は、電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。



コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください、ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。

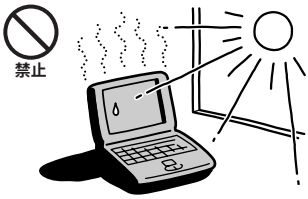
長時間使用しないときは電源プラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

プラグをコンセントから抜く

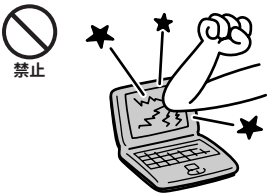
直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因となることがあります。

禁止

本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

⚠警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

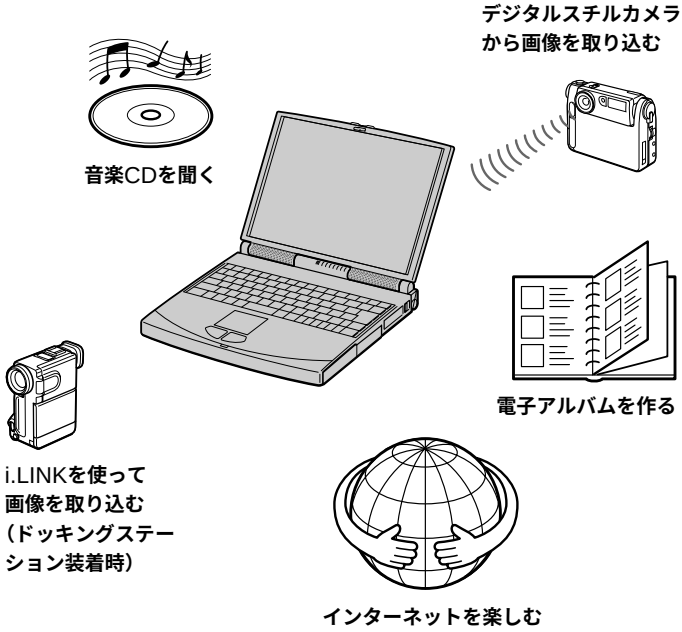
本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプターの電源コードを抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるデジタルワールド

本機はデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどのAV機器と組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのノートブックコンピューターです。
ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



デジタルスチルカメラから画像を取り込む
別売りのソニーデジタルスチルカメラからケーブルをつながずに、赤外線通信で画像を高速に取り込めます。

i.LINKを使って画像を取り込む
別売りのドッキングステーションを本機に装着することで、 i.LINK（IEEE1394）インターフェースを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどから、デジタル信号のままで美しい画像を取り込めます。

取り込んだ画像を自由自在に活用する

デジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーから取り込んだ画像は、付属の「PictureGear SE」ソフトウェアで簡単に管理できます。付属の「Adobe PhotoDeluxe」ソフトウェアを使えば、取り込んだ画像にタイトルを入れたり、特殊効果をかけたりできます。
本機で作成した画像をデジタルビデオカメラレコーダーで録画することもできるなど、取り込んだ画像を思いのままに活用できます。

AV再生を楽しむ

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。付属のリモコン付きヘッドホンを使って音楽CDを長時間聴くこともできます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます 。

ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで長時間使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの放電予測時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の3章で構成されています。

❑ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

❑ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

❑ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。
また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを楽しみたい	「インターネットを楽しむ」(54ページ)
CDを聞きたい	「音楽CD／ビデオCDを再生する」(65ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」(80ページ)
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」(59ページ)

このマニュアルは、PCG-868とPCG-864、PCG-862、PCG-861の4機種に共通です。本機をお使いになる前に、本体の底面に書かれている機種名をご確認ください。特に指示のない限り、本文中のイラストにはPCG-868を使用しています。

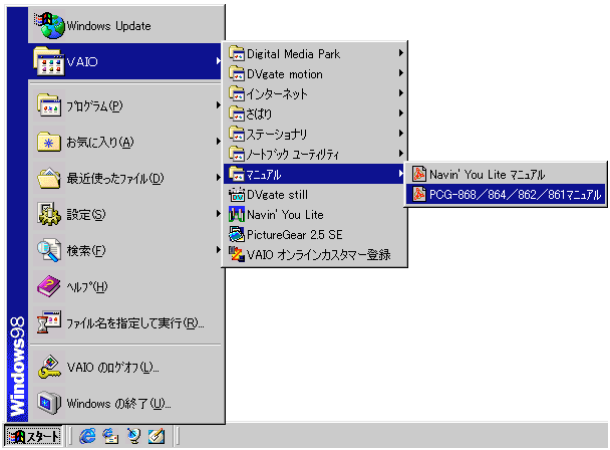
オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容は、オンラインマニュアルとして画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。また、本機のセットアップのしかたについては、オンラインマニュアルにのみ、記載されています。

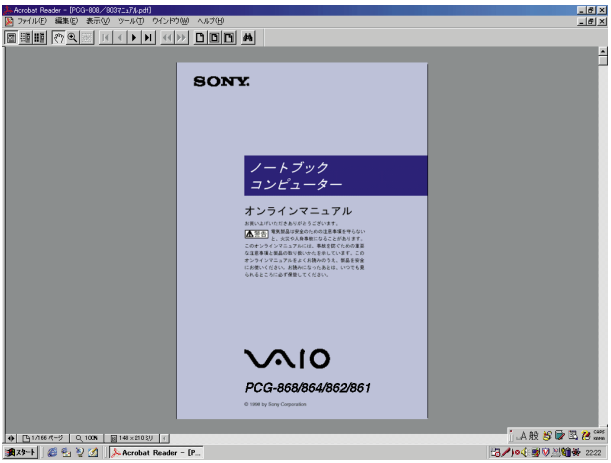
オンラインマニュアルを見るには

オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［マニュアル］を選び、［PCG-868／864／862／861マニュアル］をクリックする。**



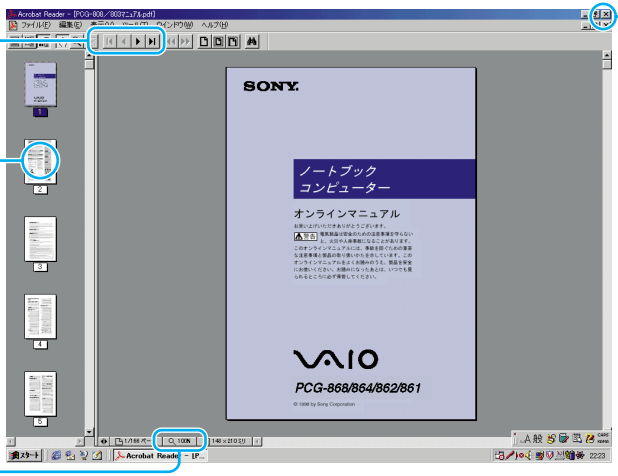
オンラインマニュアルの表紙が表示されます。



オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。

サムネール（縮小表示）を見たいときは、 をクリックします。

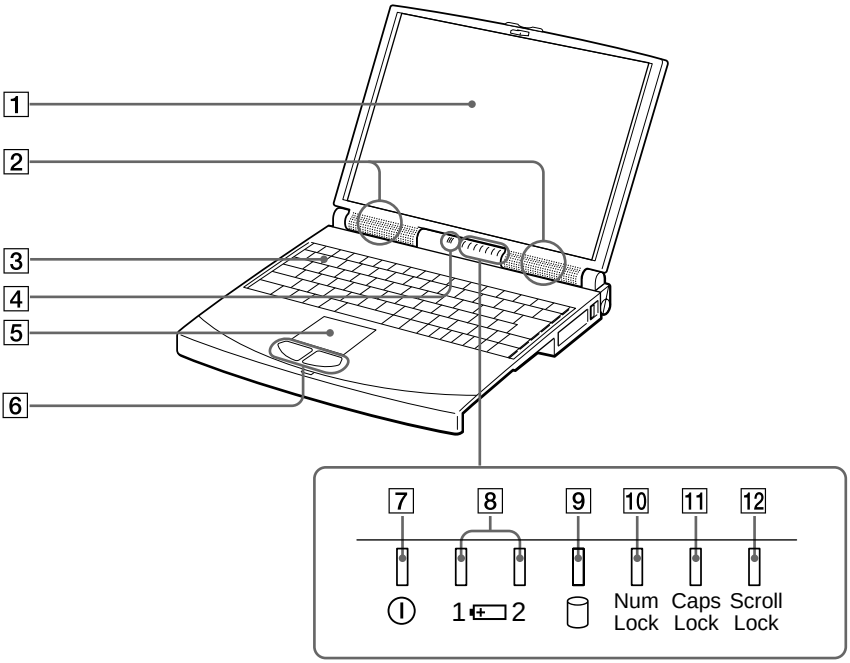


各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにはヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、（ ）内のページをご覧ください。



1 **液晶ディスプレイ**（94ページ）

2 **内蔵スピーカー**（107ページ）

3 **キーボード**（30、106ページ）

4 **内蔵マイク**

5 **タッチパッド**（28ページ）

6 **左／右ボタン**（28ページ）

7 **パワーランプ**（25ページ）

8 **バッテリー**1／2**ランプ**（49ページ）

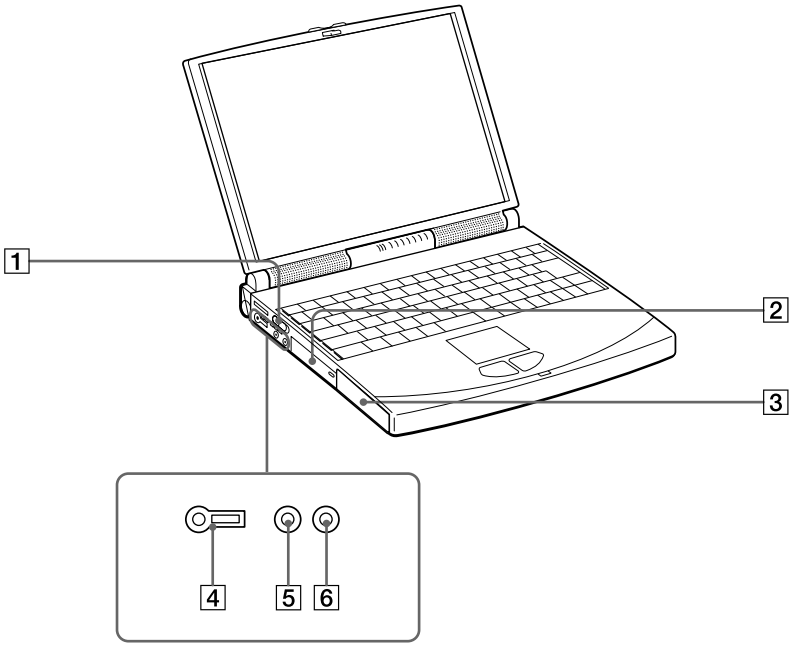
9 **ハードディスクランプ**

10 Num Lock**ランプ**（112ページ）

11 Caps Lock**ランプ**

12 Scroll Lock**ランプ**

本機左側面



1 **パワースイッチ**（25**ページ**）

2 **内蔵ハードディスク**

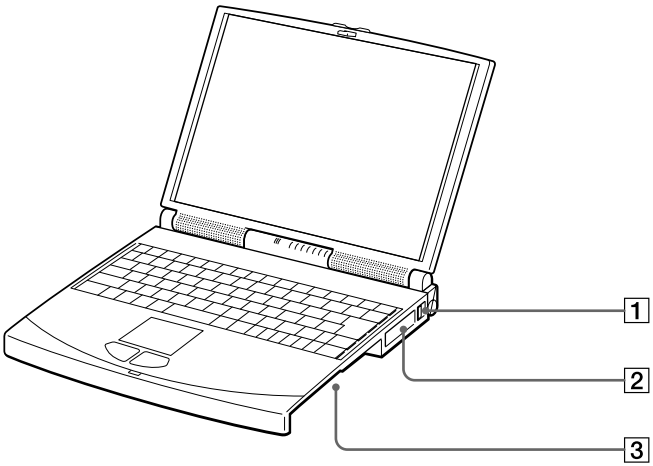
3 **バッテリーベイ**（51**ページ**）

4 **（ヘッドホン）コネクター**
（66、83**ページ**）

5 **（マイク）コネクター**
（83**ページ**）

6 **（LINE IN）コネクター**

本機右側面

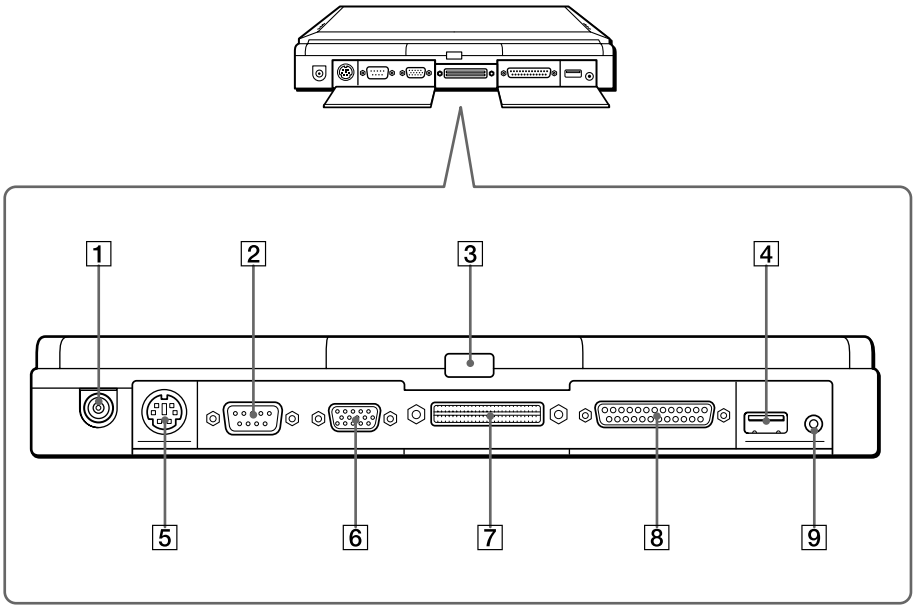


1 **モジュラージャック**（73**ページ**）

2 PC**カードスロット**（90**ページ**）

3 **マルチパーパスベイ**
（41、45、52**ページ**）

本機後面



1 DC IN**コネクター**（24**ページ**）

2 SERIAL**コネクター**（63、82、84**ページ**）

3 **赤外線通信ポート**（59**ページ**）

4 USB**コネクター**（79**ページ**）

5 / MOUSE/KEYBOARD**コネクター**（84**ページ**）

6 MONITOR**コネクター**（77、78**ページ**）

7 **ドッキングコネクター**（81**ページ**）

8 / FDD/PRINTER **コネクター**（40、76**ページ**）

9 VIDEO OUT**コネクター**（78**ページ**）

操作編

第1章

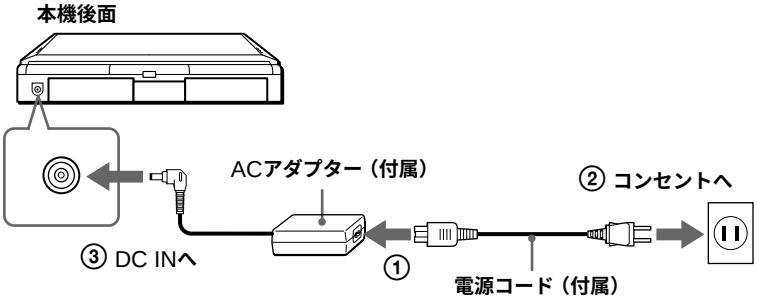
この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを説明します。

基本的な使いかた

電源を入れる

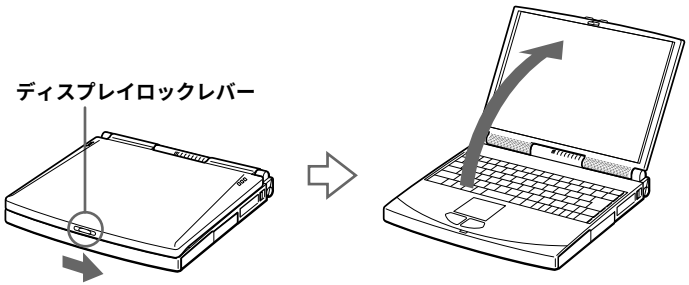
ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」(49ページ) をご覧ください。

1 **AC電源をつなぐ。**



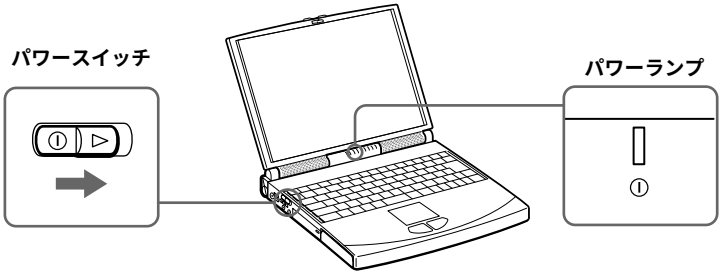
2 **ディスプレイパネルを開く。**

ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



3 パワースイッチを▷の方向にずらし、パワーランプが点灯（グリーン）したら離す。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 98が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



ご注意

4秒以上パワースイッチをずらしたままにすると、電源は切れてしまいます。

電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

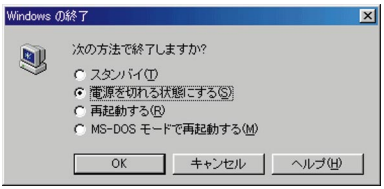
以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなることがあります。

1 **［スタート］ボタンをクリックする。**

「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**

「Windowsの終了」が表示されます。



3 **「電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。**

「Windowsを終了しています」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れ、パワーランプ（グリーン）が消灯します。

「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは

パワースイッチを4秒間以上▷の方向にずらしたままにして、電源が切れたら離します。ただし、この操作をすると作成したファイルが使えなくなることがあります。

移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードを使うと便利です。
詳しくは「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」、「省電力動作モードについて」をご覧ください。

再起動するには

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

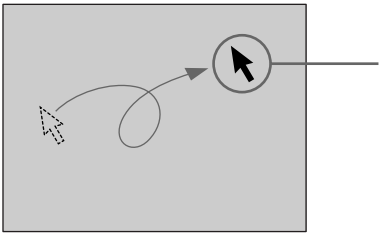
1 **［スタート］ボタンをクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの［Windowsの終了］をクリックする。**
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。

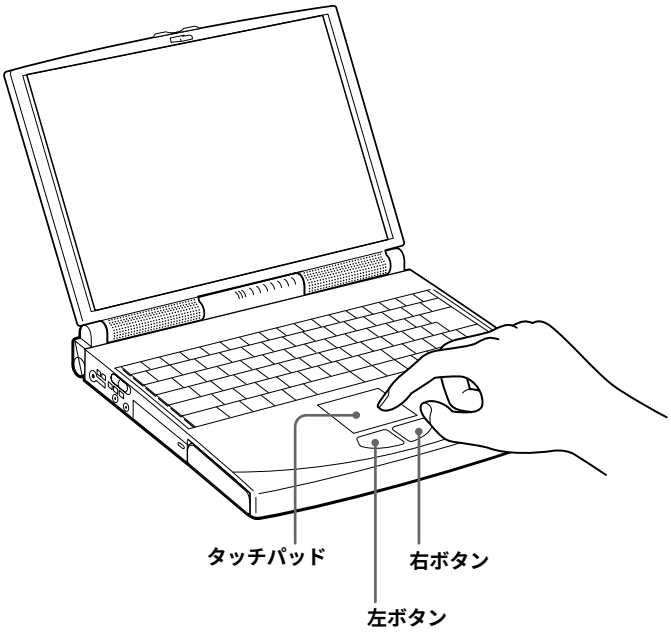
3 **「再起動する」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。**
「Windowsを終了しています」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。



クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。[OK] や [キャンセル] などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。
また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。
ワードプロセッサーや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。
またタッチパッドを、2回続けて軽くたたくか、2本の指で同時に1回軽くたたいても同じ働きをします。

ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かし、希望の位置でボタンを離します。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。
また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かして希望の位置で離しても同じ働きをします。

右クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。
押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。
また、タッチパッドを3本の指で同時に1回軽くたたいても同じ働きをします。

スクロールする

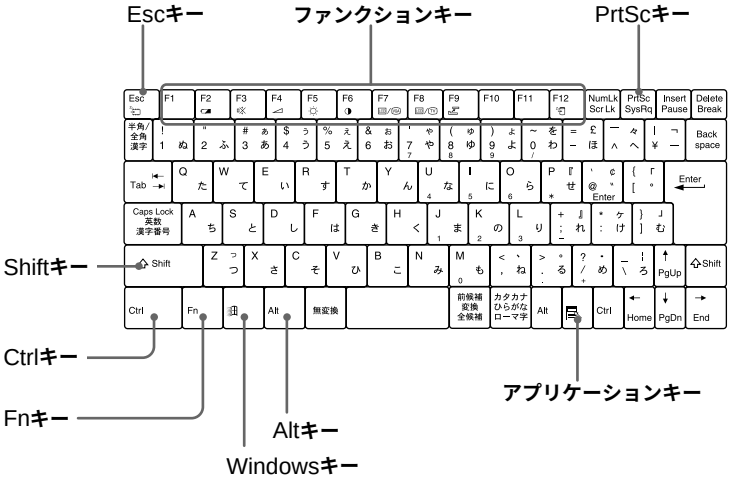
指をタッチパッド上の右端に合わせて、上下に動かします。選択されているアプリケーション上の垂直方向のスクロールバーを移動できます。
また、指をタッチパッドの下端に合わせて、左右に動かします。選択されているアプリケーション上の水平方向のスクロールバーを移動できます。

上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、タッチパッドをより便利に使うには、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「タッチパッドを便利に使う」をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Altキーを押しながら半角／全角キーを押す。押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Windows（ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。 他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（106ページ）をご覧ください。
アプリケーションキー	タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。また、ファンクションキー（F1からF12キー）などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。 「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（107ページ）をご覧ください。
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
PrtSc（プリントスクリーン）キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。
キーボード上の各キーの名前と働きについて詳しくは、「キーボードを使う」(30ページ) をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

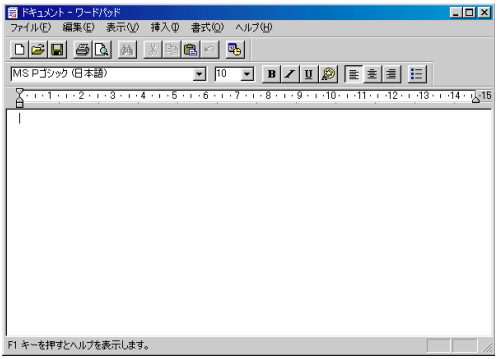
まず、ワードパッドを起動します。

1 [スタート] ボタンをクリックする。

スタートメニューが表示されます。

2 [プログラム] をクリックして、ポインターを [アクセサリ] に合わせてから、[ワードパッド] をクリックする。

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。

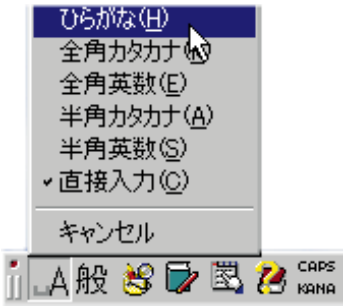


2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98 ツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。

MS-IME98 **ツールバー**

1 MS-IME 98**ツールバーの** [␣A] **をクリックする。**
文字入力選択メニューが表示されます。



2 **[ひらがな] をクリックする。**
画面上に表示されているツールバーの表示が [␣A] から [あ] に変わり、日本語を入力できるようになります。

[␣A] から [あ] に変わる。

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

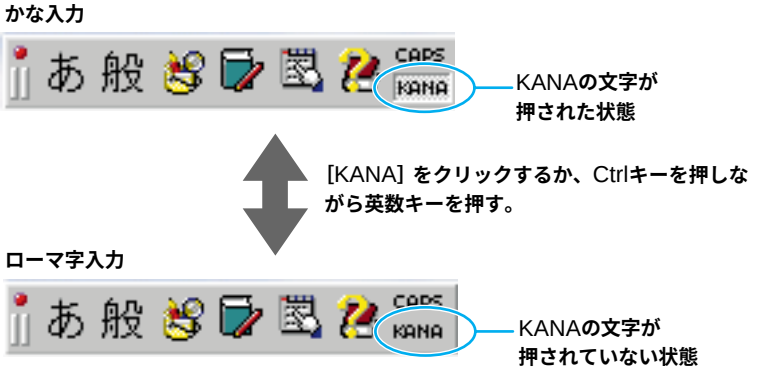
かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98 ツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

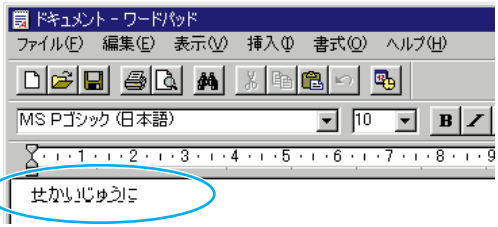


文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

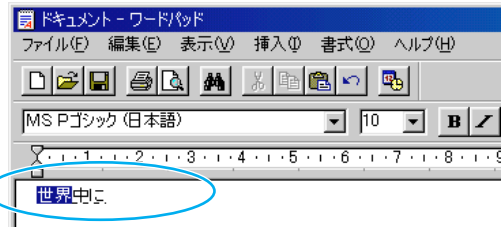
1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**
  S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

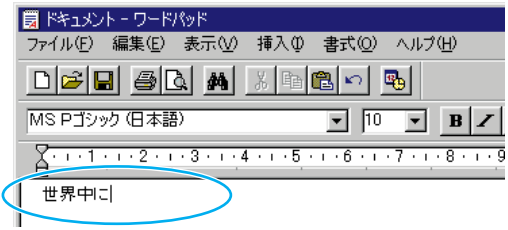
2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

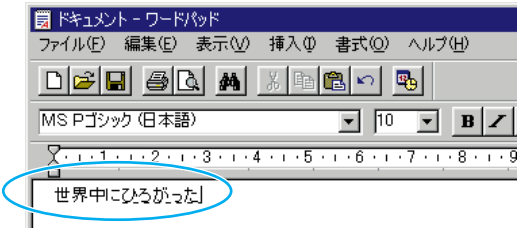
Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



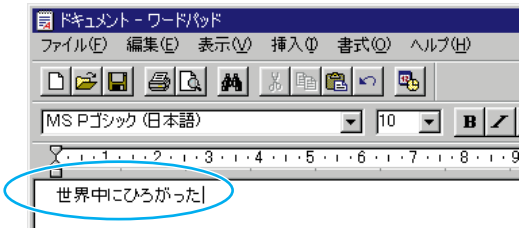
- **ローマ字入力の場合**

  H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**

  ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

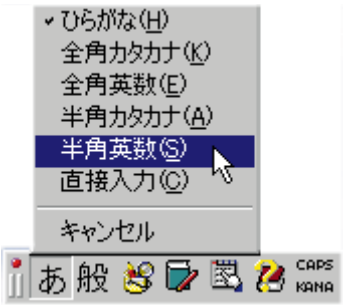
2 **Enterキーを押す。**



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

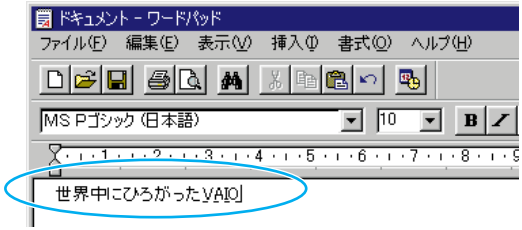
3 英字を入力する

1 **MS-IME98 ツールバーの［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。**



ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 **Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。**

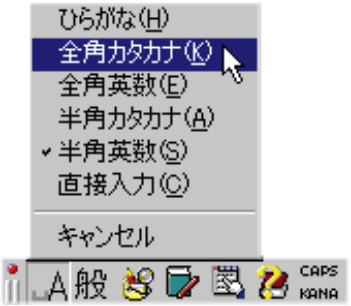


3 **Enterキーを押す。**

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

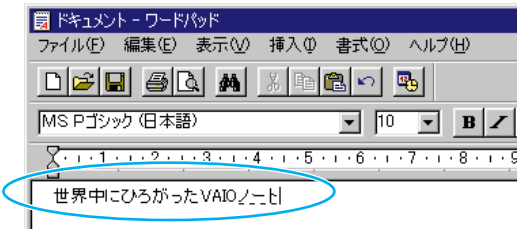
4 カタカナを入力する

1 MS-IME98 **ツールバーの** [␣A] **をクリックして、**[**全角カタカナ**] **を選ぶ。**



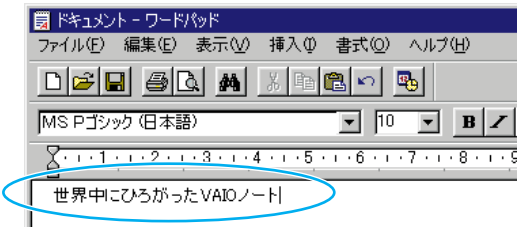
ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

2 **「ノート」の読みを入力する。**



- **ローマ字入力の場合**
  N、O、-（長音、[=]キー）、T、Oの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  の、ー（長音、[¥]キー）、と、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。

フロッピーディスクを使う

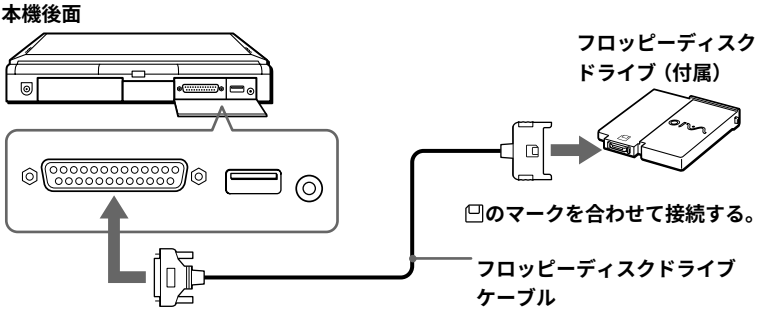
フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

本機はフロッピーディスクドライブを外付けドライブとして使うことも、マルチパーパスベイに内蔵することもできます。

外付けドライブとして使う

フロッピーディスクドライブケーブルを使って、フロッピーディスクドライブ（付属）を本機に接続します。



ご注意

フロッピーディスクドライブを外付けドライブとして接続すると、2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書きはできません。

電源を切ってからフロッピーディスクドライブを取り付けたときは

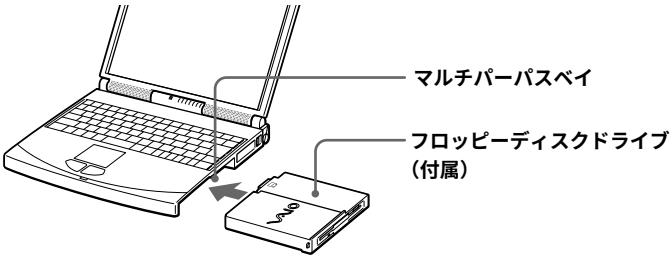
電源を入れると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

電源を切らずにフロッピーディスクドライブを取り付けたときは

取り付けただけでは使えません。フロッピーディスクを使うためには、取り付けてから「Sony Notebook Setup」ソフトウェアでパラレルポートの設定を変更する必要があります。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「パラレルポートの設定を変更する」をご覧ください。

内蔵ドライブとして使う

本機右側面のマルチパーパスベイにフロッピーディスクドライブを取り付けることもできます。電源を切ってから取り付けてください。なお、取り付けたあとの設定は必要ありません。



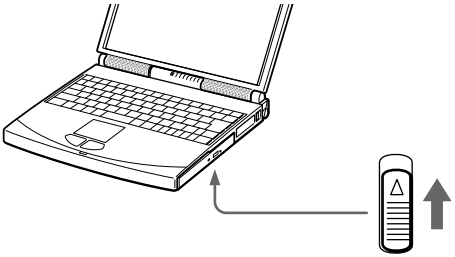
**VAIOマークのある面を上にして挿入します。
取りはずしレバーが確実にロックされるまで
押し込んでください。**

ご注意

出荷時には本機のマルチパーパスベイにはCD-ROMドライブが取り付けられています。本機の電源を切ってCD-ROMドライブを取りはずしてから、フロッピーディスクドライブを取り付けてください。CD-ROMドライブを取りはずすには、「CD-ROMドライブを取りはずすには」（45ページ）をご覧ください。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには

電源を切ってから、フロッピーディスクドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向（奥）にずらし、ディスクドライブを引き出します。



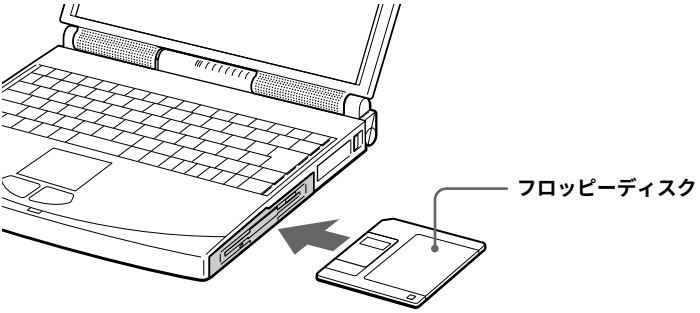
取りはずしレバー

ご注意

フロッピーディスクドライブを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。
ウェイトセーバーの取り付けかたについては、52ページをご覧ください。

フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



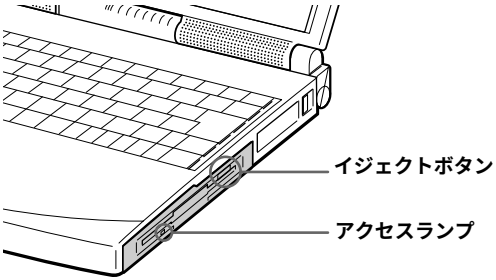
本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。
その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときは

フロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOテクニカルレスポンスセンターにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

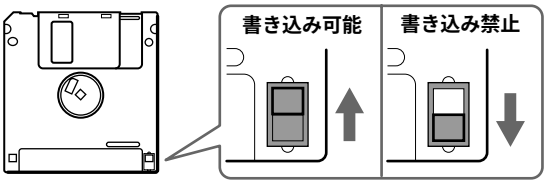
❑ 書き込み可能

データの書き込みが可能な状態です。

❑ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。
本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト*	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

* 2HD 1.2Mバイトタイプでは、フロッピーディスクドライブを外付けにしているときは読み書きともに不可です。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

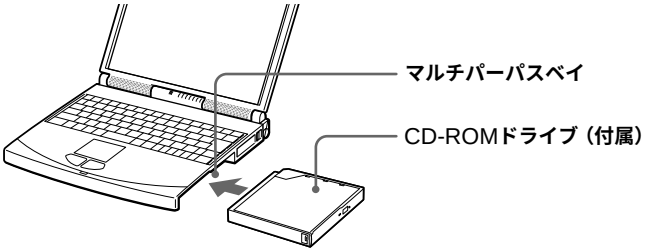
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウエアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウエアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

CD-ROMを使う

CD-ROMはコンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、CD-ROMドライブの取り付けかたや、CD-ROMの取り扱いについて説明します。

CD-ROMドライブを取り付ける

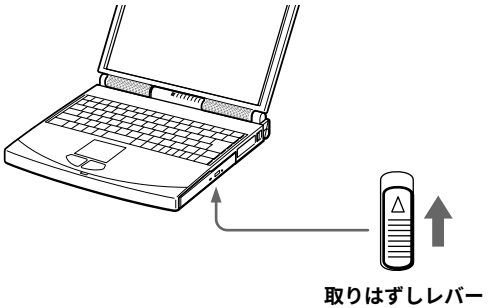
CD-ROMドライブ（付属）を本機のマルチパーパスベイに取り付けます。本機の電源を切ってから行ってください。



電源を入れると、CD-ROMドライブは自動的に認識されます。

CD-ROMドライブを取りはずすには

本機の電源を切ってから、CD-ROMドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向（奥）にずらし、ドライブを引き出します。



ご注意

CD-ROMドライブを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

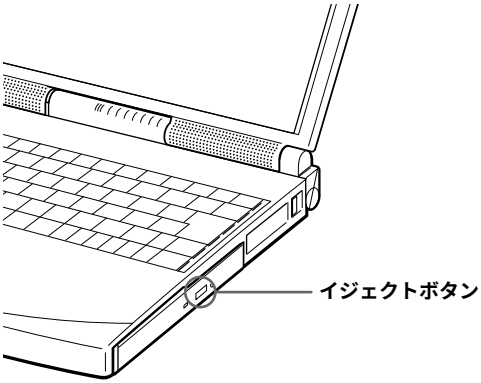
ウェイトセーバーの取り付けかたについては、52ページをご覧ください。

ディスクを入れる

本機の電源を入れてから、CD-ROMを入れます。

1 イジェクトボタンを押す。

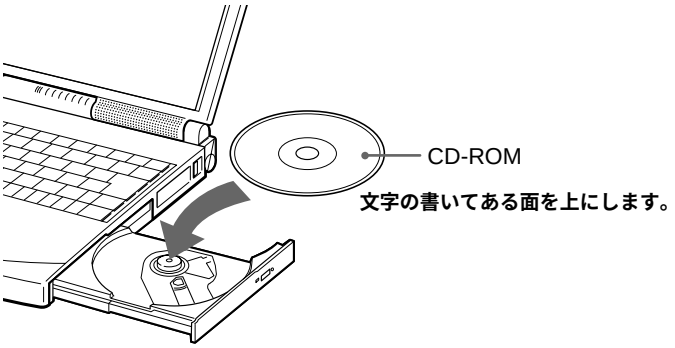
ディスクトレイがでてきます。



2 ディスクをトレイにのせ、トレイ下部を手で支えながら、トレイ中央の突起部にカチッと音がするまでディスクをはめ込む。

ご注意

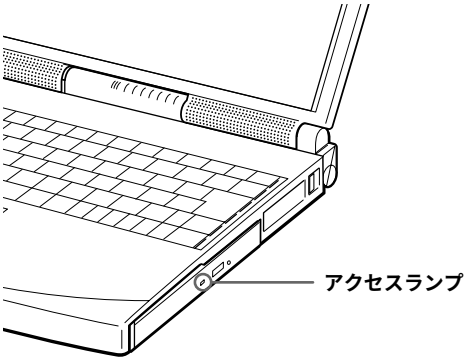
きちんとディスクをはめ込まないでトレイを閉じると、トレイが開かなくなることがあります。



3 ディスクトレイを軽く押して、トレイを閉める。

ディスクを取り出すには

ドライブにあるアクセスランプが点滅していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。



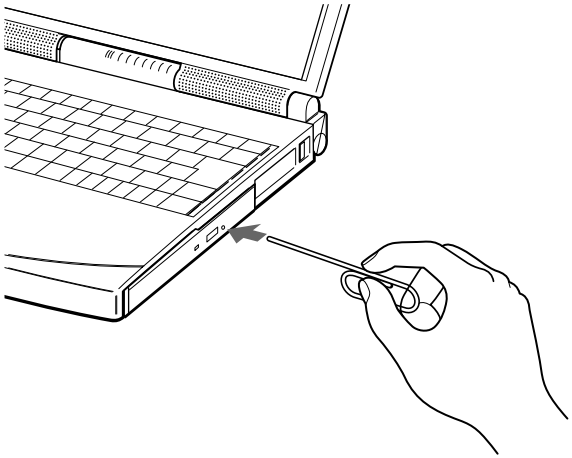
ご注意

本機がシステム サスペンドモードまたはシステム ハイバネーションモードのときは、ディスクを取り出せません。本機を通常の状態に復帰させてから、イジェクトボタンを押してください。

システム サスペンドモード、システム ハイバネーションモードについて詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」、「省電力動作モードについて」をご覧ください。

イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは

針金のようなもの（太めのクリップで代用可）を、マニュアルイジェクト穴に押し込んでください。



使用できるディスク

本機のCD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
ビデオCD	
CD-R	
CD-RW	
CD TEXT	
フォトCD	――
電子ブック	

ご注意

本機ではCD（円形ディスク）のみお使いいただけます。

円形以外の特殊な形状（星型、ハート型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。

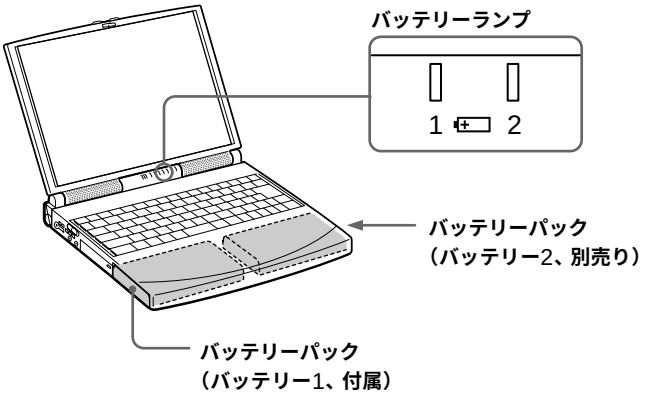
バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。付属のバッテリーパックに加えて、別売りのバッテリーパックを取り付けることもできます。

ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- 本機は、バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモード*になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどに、バッテリーが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。

* システム ハイバネーションモードでは、作業中の状態がハードディスクに保存され、本機の電源が切れます。
操作のしかたなど、詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「省電力動作モードについて」をご覧ください。



バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
パワーランプと一緒に点滅	バッテリーの残量が少ない状態
2度連続点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中

❑ バッテリーランプ1

本機左側面に取り付けたバッテリーの状態を示します。

❑ バッテリーランプ2

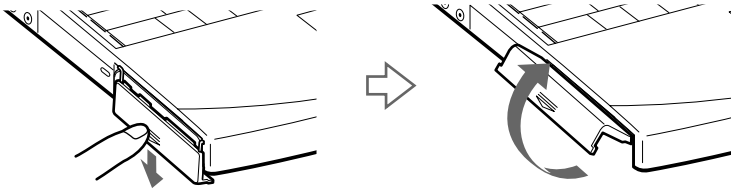
本機右側面のマルチパーパスベイに取り付けたバッテリーの状態を示します。

- 完全に充電したバッテリーで本機を約2〜5時間使用できます。バッテリーの使用可能時間は、お使いになる機種やその使用状況によって変わることがあります。バッテリーの使用時間について詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには
  付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードをスタミナモードに変更することで、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「バッテリーの消費電力を節約する」をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには
  付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と放電予想時間を確認できます。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「バッテリーの残量を確認する」をご覧ください。

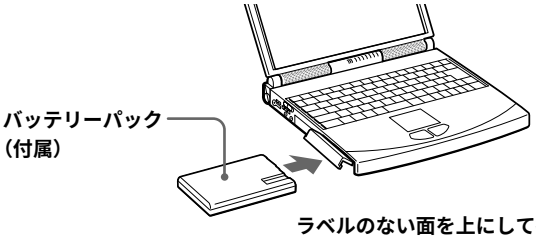
バッテリーパックを取り付ける

本機左側面のバッテリーベイにバッテリーパックを取り付けます。

1 バッテリーベイのふたを開ける。



2 バッテリーを挿入する。



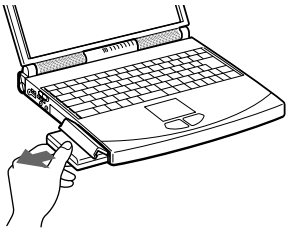
ラベルのない面を上にして挿入します。

3 バッテリーベイのふたを閉じる。

カチッと音がするまでしっかりと閉じてください。

バッテリーパックを取りはずすには

バッテリーベイのふたを開けて、バッテリーを引き出します。



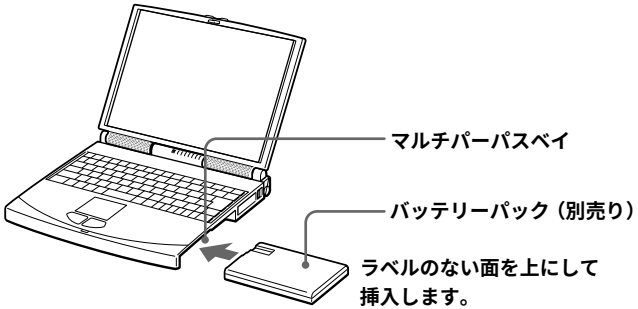
ご注意

- ACアダプターをつないでいない状態で、本機の電源を入れたままバッテリーを取りはずすと、作業中のデータが失われます。
- ACアダプターをつないでいない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリーを取りはずすと、保存されていないデータは失われます。

セカンドバッテリーパックを取り付ける

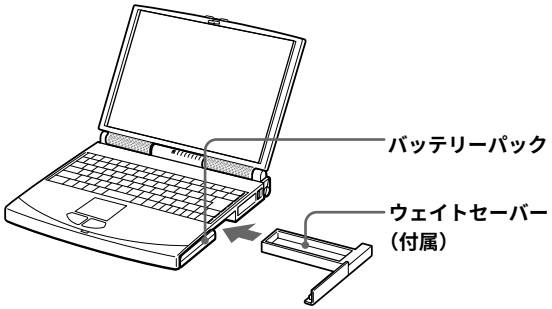
付属のバッテリーに加えて、別売りのバッテリーパックを取り付けると、バッテリーでの使用時間が約2倍になります。

1 本機右側面のマルチパーパスベイにバッテリーを取り付ける。



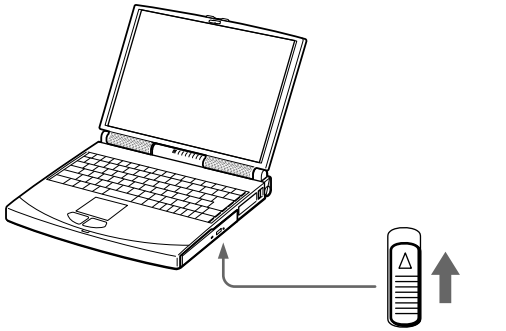
2 ウェイトセーバー（付属）を取り付ける。

ウェイトセーバーはバッテリーを固定するために必要です。マルチパーパスベイにバッテリーを取り付けたときは、必ずウェイトセーバーを装着してください。



バッテリーパックを取りはずすには

ウェイトセーバーの底面にある取りはずしレバーを矢印の方向（奥）にずらし、バッテリーを引き出します。



ご注意

バッテリーパックを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使っていてもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプが2度連続で点滅します。
本機を使用しながら充電した場合、バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約2時間かかります（85%充電、使用状況による）。
バッテリーが85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。
85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。

本機に2つのバッテリーを取り付けているときは

最初に取り付けたバッテリーから充電されます。バッテリーの充電が85%まで完了したら、次に取り付けたバッテリーが充電されます。
どのバッテリーが充電されているかは、本機のバッテリーランプで確認してください。

ドッキングステーションでも充電できます

別売りのドッキングステーションでもバッテリーを充電できます。詳しくは、PCGA-DB8/DH8の取扱説明書をご覧ください。

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ

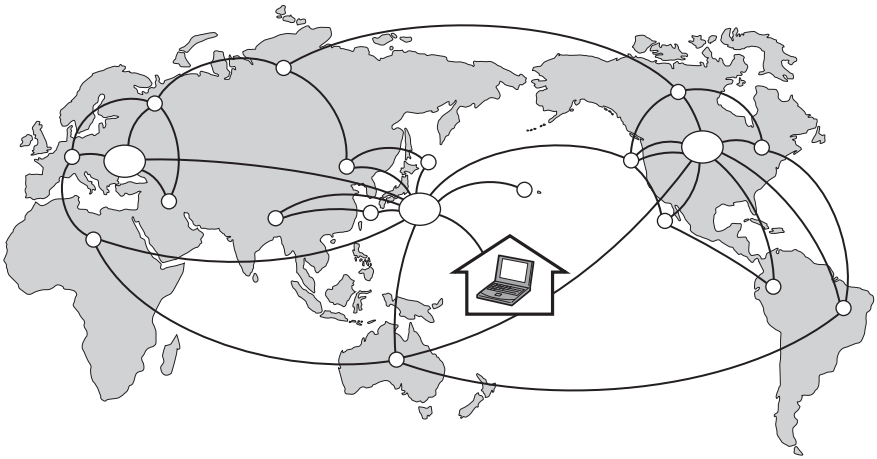
本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話線につないでインターネットを楽しむことができます。

「インターネット」とは？

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページをつくって公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



インターネットを楽しむには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。
また、電話回線を通してインターネットにつなぐために、インターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）という接続業者と契約する必要があります。

プロバイダーについて

数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。
また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探しください。

準備1　電話線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話線につなぎます。
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」（72ページ）をご覧ください。

準備2　インターネットサービスプロバイダーと契約する

接続の契約をしていない方のために、本機にはいろいろなプロバイダーへの入会キットが付属しています。詳しくは付属の冊子などをご覧ください。

準備3　接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。

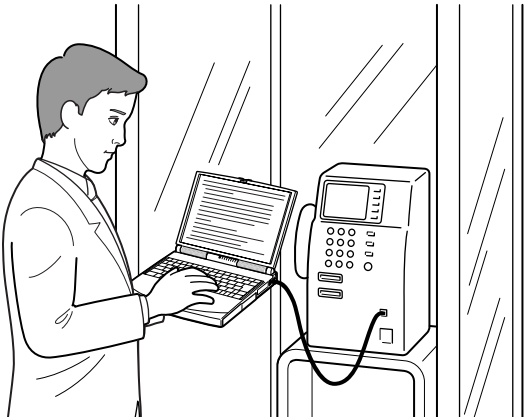
外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアクセスする



デジタル携帯電話やPHSを使ってアクセスする

公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュラージャックのある公衆電話に直接つなげます。

テレホンコードとモジュラージャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

1 本機と電話機をテレホンコードでつなぐ。

2 電話機の「データ通信」ボタンを押す。

3 テレホンカードを入れる。

4 通信用のソフトウェアを起動する。

これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- タスクバーの通信インジケーターをタッチパッドの右ボタンでクリックして、ショートカットメニューを表示させてから、［切断］を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA（ターミナルアダプター）カードを本機に装着してモジュラージャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。

通信速度が速く（最大64kbps）、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプターカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダーがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダーによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

デジタル携帯電話を使って接続する

本機をデジタル携帯電話に接続して、インターネットにアクセスできます。

デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く（9600bps）、携帯電話にあわせた接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機をPHSに接続して、インターネットにアクセスできます。

通信速度が速く（最大32kbps）、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダーなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHSもあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

他の機器とデータをやりとりする

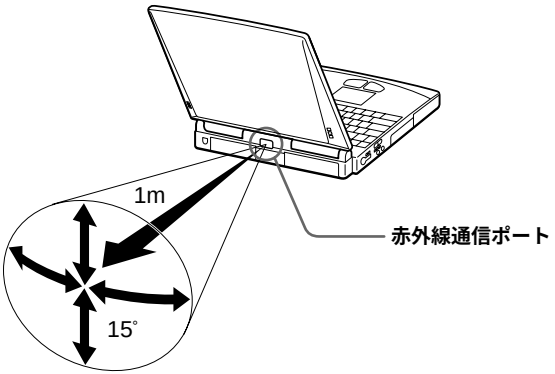
本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...
外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

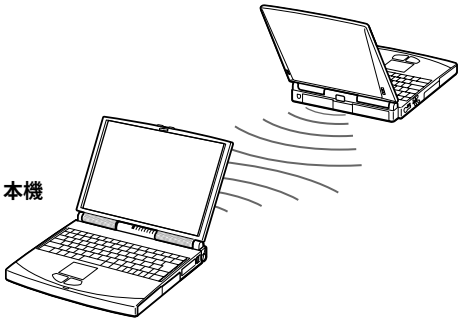
ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。
- 赤外線（IrDA）を使ってやりとりする
- シリアルケーブルを使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

赤外線（IrDA）でデータをやりとりする

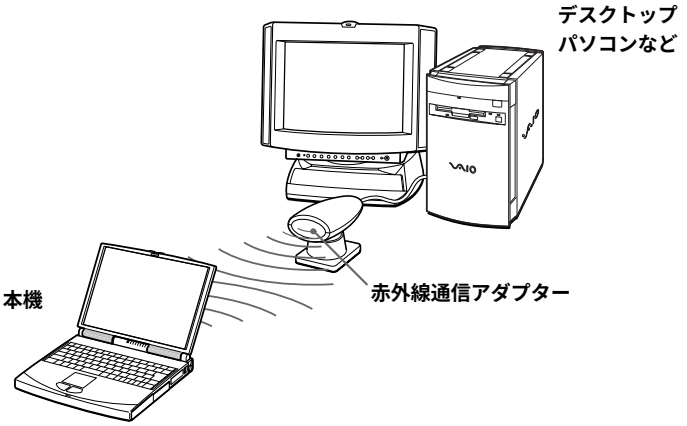
本機後面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつながずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。
パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラ「サイバーショット」にもIrDA対応の赤外線通信ポートがついているため、本機と赤外線でデータをやりとりできます。



他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。



赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。
詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。



赤外線でデータをやりとりするには

実際にデータをやりとりするには、本機に付属のソフトウェアを使います。

- 「PictureGear SE」：デジタルスチルカメラなどから画像データを取り込む。
- 「Intellisync for Notebooks」：パソコン間での文書などのデータをやりとりする。

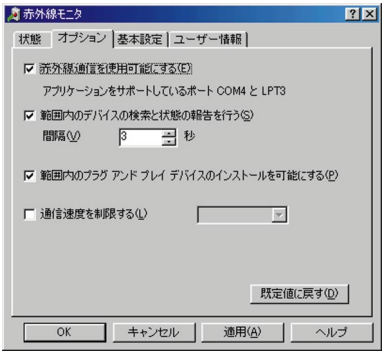
「PictureGear SE」をお使いになるときは

工場出荷時の設定では、赤外線でデータをやりとりすることができません。次の操作を行って、赤外線通信が使えるようにしてください。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［コントロールパネル］の中の［赤外線モニタ］をダブルクリックする。**

3 **［オプション］タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。**



4 **［OK］をクリックする。**

「Intellisync for Notebooks」をお使いになるときは

以下の点にご注意ください。

- 「赤外線モニタ」の設定が「赤外線通信を使用可能にする」になっていると、他のパソコンと赤外線で接続できません。このようなときは、上記の手順3で「赤外線通信を可能にする」のチェックをはずし、［OK］をクリックしてから「Intellisync for Notebooks」を起動してください。
- 「Intellisync for Notebooks」起動時に、赤外線モニターに「赤外線通信は使用不可になっています」と表示されていますが、「Intellisync for Notebooks」での赤外線通信は使用できますので、そのまま起動してください。

次のページにつづく

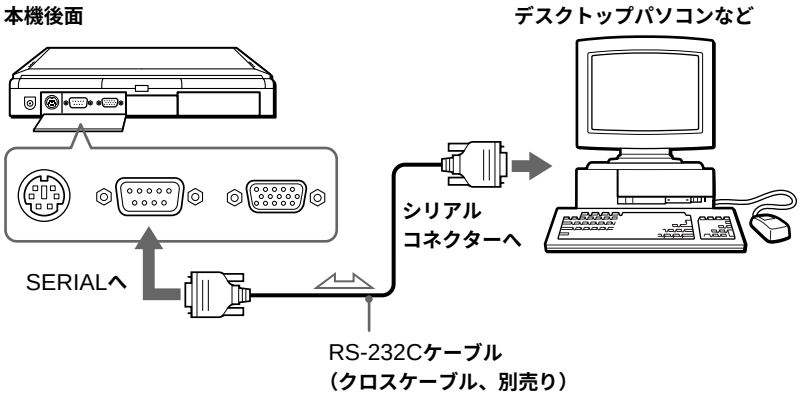
- 本機にフロッピーディスクドライブを接続していないときは、「Intellisync for Notebooks」の「ファイル転送」ウィンドウのツリー表示で本機のフロッピーディスクドライブのアイコンをクリックしないでください。
  クリックすると、まれに本機のポインターが動かなくなり、以降の操作が続けられなくなる場合があります。
- 誤ってフロッピーディスクドライブのアイコンをクリックしたときは、1〜2分間程度、そのまま放置してください。
  それでもポインターが動かないときは、本機のパワースイッチを▷方向に4秒以上ずらして本機の電源を切り、再度電源を入れ直してください。

ご注意

- 「PictureGear SE」をお使いになるときはの手順3（61ページ）で「赤外線通信を使用可能にする」をチェックすると、一定時間ごとに通信相手を探すため、バッテリーの消耗が早まります。バッテリーの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、「赤外線通信を使用可能にする」のチェックをはずしておくことをおすすめします。
- タスクトレイの赤外線モニターアイコンを右クリックして、赤外線通信の設定を変更しないでください。「PictureGear SE」をお使いになるときはの手順3（61ページ）で設定するか、タスクトレイの赤外線モニターアイコンを左クリックし、赤外線モニターを起動して設定してください。
- 内蔵ハードディスク以外のデバイス（内蔵CD-ROM、PCカードに接続したCD-ROM、ハードディスクなど）と赤外線通信で直接データをやりとりするときは、「PowerPanel」でACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようにしてください。容量の大きなファイルをうまくやりとりできないことがあります。
  工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
- データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。
  – 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
  – 赤外線通信ポートは真正面で向き合うように配置する。
  – 赤外線通信ポート間に物を置かない。
  – 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする

本機とデスクトップパソコンなどを接続ケーブルを使って接続して、データをやりとりできます。赤外線通信に比べて通信に多少時間はかかりますが、シリアルコネクターのある機器とならRS-232Cケーブル1本でデータをやりとりできます。



ご注意

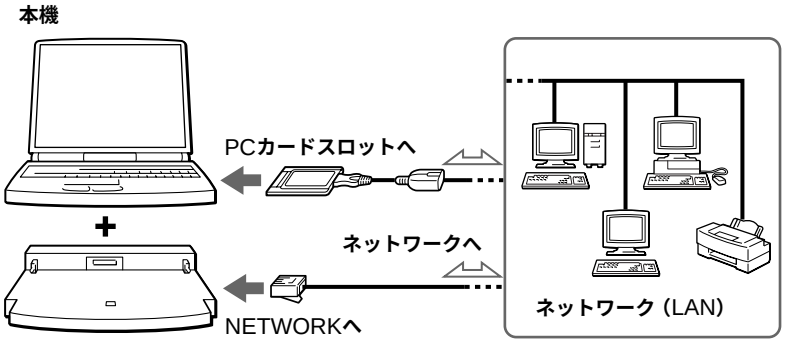
- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器および周辺機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- RS-232Cケーブルは、クロスケーブルをお使いください。ストレートケーブルでつないでも、データをやりとりできません。
- RS-232Cケーブルを購入されるときは、コネクターの形状に十分ご注意ください。

ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

本機を職場などのネットワーク（LAN）に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。

次のページにつづく

また、本機にネットワークドッキングステーションPCGA-DB8を装着しているときは、ネットワークドッキングステーション後面のNETWORKコネクターを使って、10BASE-Tタイプのイーサネットのネットワークに接続できます。ドッキングステーションについて詳しくは、PCGA-DB8/DH8の取扱説明書をご覧ください。
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。

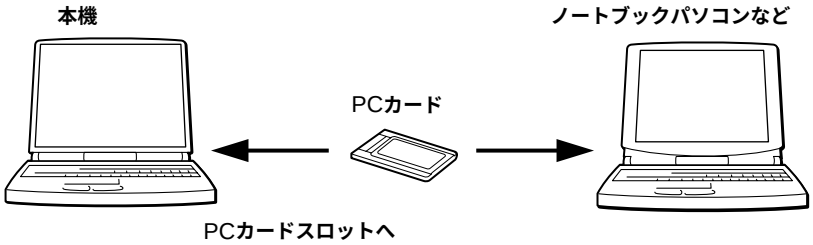


ご注意

本機用のドッキングステーションは、PCGA-DB8/DH8のみです。

PCカードを使ってデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（89ページ）をご覧ください。
本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。



音楽CD／ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）また、本機をシステム サスペンドモードに設定すると、音楽CDを長時間再生できます。

Digital Media Parkで音楽CD／ビデオCDを再生する

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Digital Media Park」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の「AV再生の設定」アイコンをダブルクリックする

「Digital Media Park」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

画面の指示に従って必要な項目を設定します。

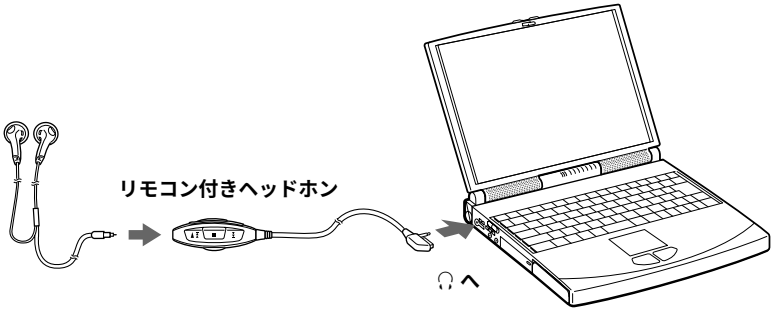
再生する

設定が終了すると、画面上部に「Digital Media Park」の中の「Media Bar」操作画面が表示されます。「Digital Media Park」の使いかたについては、「Digital Media Park」の取扱説明書をご覧ください。

CDを長時間聞くには

本機がシステム サスペンドモードのときは、付属のリモコン付きヘッドホンを使って音楽CDを長時間再生できます。再生時間は完全に充電されたバッテリーが取り付けられているとき、約6〜7時間です。この再生方法では、本機の操作をしながら音楽CDを聞くことはできません。本機を操作しながら聞きたいときは「Digital Media Park」ソフトウェアを使います。

1 リモコン付きヘッドホンを本機に取り付ける。



2 Fnキーを押しながら、Escキーを押す。
本機がシステム サスペンドモードに入ります。

3 リモコンの■ボタンを押す。

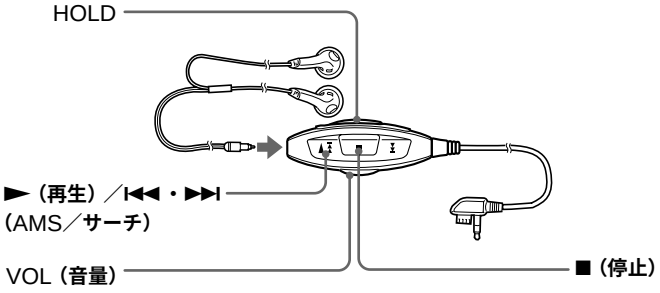
4 CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す。
ディスクトレイがでてきます。

5 聞きたい音楽CD をのせて、ディスクトレイを軽く押す。
ディスクトレイが閉まります。

6 リモコンの►ボタンを押す。
再生が始まります。
再生をやめるときは、■ボタンを押してからCD-ROMドライブのイジェクトボタンを押して、音楽CDを取り出します。

システム サスペンドモードから通常の動作モードに戻すには
いずれかのキーを押します。

リモコンの使いかた



操作	押すボタン
今聞いている曲を頭出しする（AMS[1)]機能）	I◄◄（►ボタンのI◄◄側）を1度押す。[2)]
前の曲、さらに前の曲を頭出しする（AMS機能）	I◄◄（►のI◄◄側）を繰り返し押す。
次の曲を頭出しする（AMS機能）	►►I（►の►►I側）を1度押す。
さらに先の曲を頭出しする（AMS機能）	►►I（►の►►I側）を繰り返し押す。
早戻しする（サーチ機能）	I◄◄（►のI◄◄側）を押したままにする。[2)]
早送りする（サーチ機能）	►►I（►の►►I側）を押したままにする。[2)]

[1)] AMS＝Automatic Music Sensorの略。曲の頭を探す機能です。

[2)] 演奏中のみ操作できます。

誤動作を防ぐには（HOLD機能）

HOLDスイッチを矢印の方向にずらします。誤ってボタンが押されるのを防げます。HOLD機能を解除するには、HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらします。

ご注意

- リモコン付きヘッドホンは本機に付属のものをお使いください。
- 再生を停止してから音楽CDを取り出すときは、リモコンの■ボタンを押してから1分以内に取り出してください。1分以上たつと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイがでてきません。この場合は、もう1度リモコンの■ボタンを押してから取り出してください。
- 音が出ない場合は、本機の画面右下の を右クリックし、［音量コントロールを開く］をクリックして、音量を確認してください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

❑ i.LINK対応機器から動画を取り込む（PCG-868のみ）

「DVgate motion」ソフトウェアを使います。
別売りのドッキングステーションPCGA-DB8/DH8のi.LINKコネクターにi.LINK対応機器をつなぐことにより、動画を本機に取り込むことができます。
使いかたについて詳しくは、「DVgate motion」の取扱説明書をご覧ください。

❑ i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「DVgate still」ソフトウェアを使います。
別売りのドッキングステーションPCGA-DB8/DH8のi.LINKコネクターにi.LINK対応機器をつなぐことにより、静止画を本機に取り込むことができます。
使いかたについて詳しくは、「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 画像データを管理する

「PictureGear SE」ソフトウェアを使います。
デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データを表示し、まとめて管理できます。
使いかたについて詳しくは、「PictureGear SE」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 仮想世界を散歩する

「さぱり（3Dマルチユーザーチャットワールド）」ソフトウェアを使います。
インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さぱり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット（会話）も楽しめます。
使い方について詳しくは、「さぱり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

❑ **地図を見る**（本機には地図データは付属していません。）
「Navin' You Lite」ソフトウェアを使います。
ナビ研規格（S規格/Ver.2.01/Ver.2.1）および株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズに準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。
使いかたについて詳しくは、「Navin' You Lite」の オンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。
- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

第2章

この章では、本機と電話回線やプリンターなどの周辺機器との接続のしかたや、メモリーの増設のしかたなどを説明します。

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。
内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、電話機から「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、ダイヤルボタンを押すたびに電話機から「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

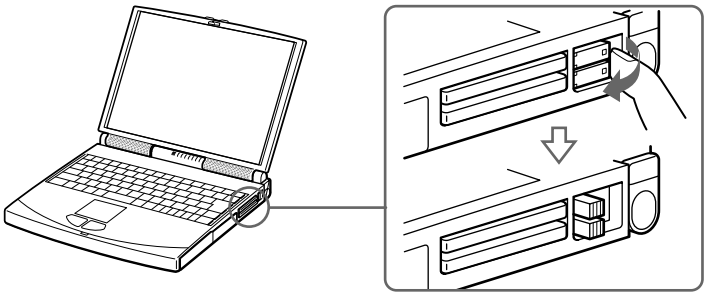
① [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。

② [コントロールパネル] の中の [モデム] をダブルクリックする。

③ [ダイヤルのプロパティ] をクリックする。

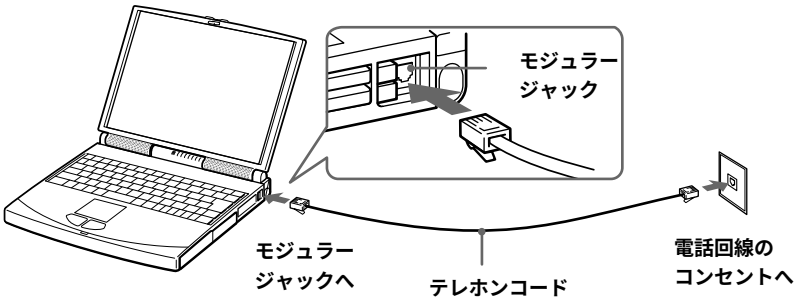
④ [ダイヤル方法] からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて [トーン] または [パルス] を選択する。

3 PCカードスロットのイジェクトボタンを起こす。

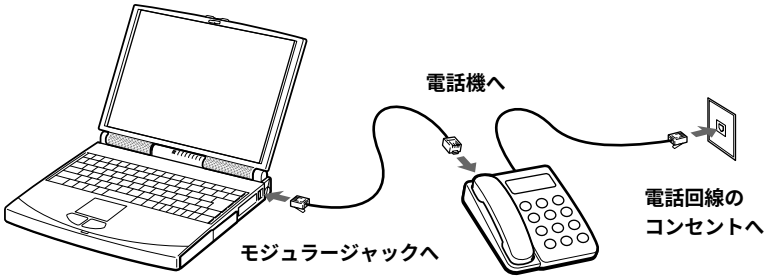


4 **電話回線につなぐ。**

「カチッ」と音がするまでテレホンコードを差し込みます。



モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



次のページにつづく

ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで設定をする必要があります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

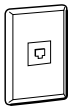
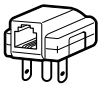
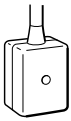
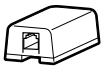
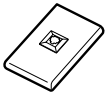
- 使用可能な回線は、一般電話回線です。
- PBX回線を職場内で使用するとき
  職場内でPBX（構内交換機）を使用しているときは、モジュラー型電話回線差し込み口にモデムを直接つなぐと、うまく送受信できないことがあります。これは呼び出し信号の使われかたが、一般の電話回線と異なるためです。
  PBX回線につなぐときは、PBX回線の電気的条件がNTTの電話回線と同じである必要があります。接続できるかどうかは、PBXメーカーまたはPBX保守業者にお問い合わせください。
- PBXの種類によっては、故障・発火の原因になることがあります。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、50秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- ISDN回線などでTA（ターミナルアダプター）をお使いのときは、TAとの接続やTAの設定を確認してください。
- 契約したプロバイダーがV.90またはK56flexに対応している場合、最大56kbpsで通信が可能です。ただし、電話回線の状態によって、通信速度は変化します。V.90、K56flexは自動的に選択されます。

PBX回線で0発信が必要なときは

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**
2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**
3 **［ダイヤルのプロパティ］をクリックし、「外線発信番号」に“0,”（ゼロ、カンマ）を入力する。**
4 **［OK］をクリックする。**
5 **［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。**
6 **［接続］タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**
7 **［OK］をクリックする。**
8 **「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。**

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラー型 	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型 	テレホンモジュラーアダプターTL-30 
直付け型ローゼット[1)] 	モジュラーローゼットTL-32CRなど 
埋め込み型[2)] 	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31 

[1)] 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

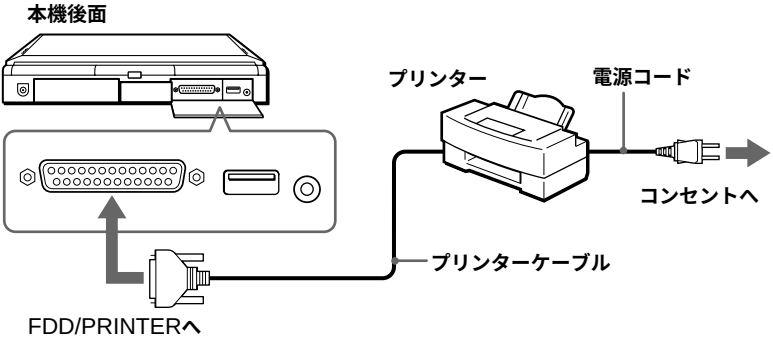
[2)] 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

プリンターをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンターに付属しているプリンターケーブルを使ってつなぎます。



ご注意

- 本機とプリンターの電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しないことがあります。

プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする。
  詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンターポートを設定する。
  詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「パラレルポートの設定を変更する」をご覧ください。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、本機に外部ディスプレイやテレビを接続します。

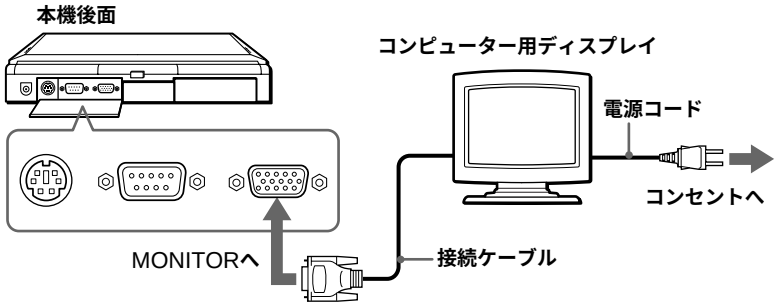
ご注意

- 本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。
詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「表示するディスプレイを選ぶ」をご覧ください。

コンピューター用ディスプレイをつなぐ

スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部アクティブスピーカーとマイクを別につなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。
外部スピーカーなどの接続のしかたについては、「外部スピーカー／マイクをつなぐ」（83ページ）をご覧ください。

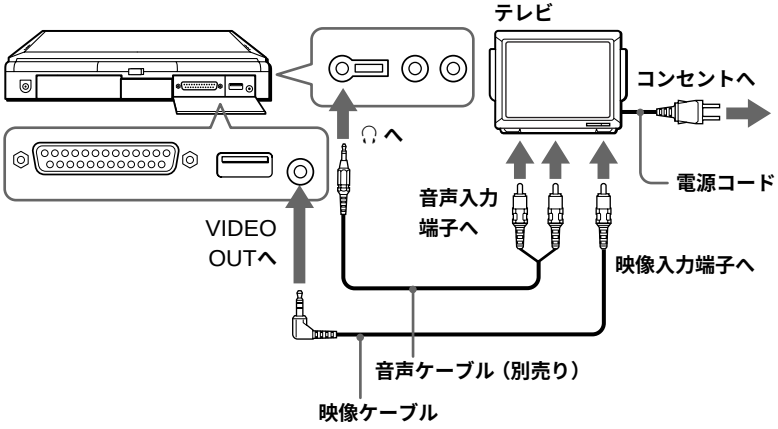


テレビをつなぐ

映像／音声接続ケーブルを使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「外部入力」に合わせます。
本機側の設定も必要です。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「表示するディスプレイを選ぶ」をご覧ください。

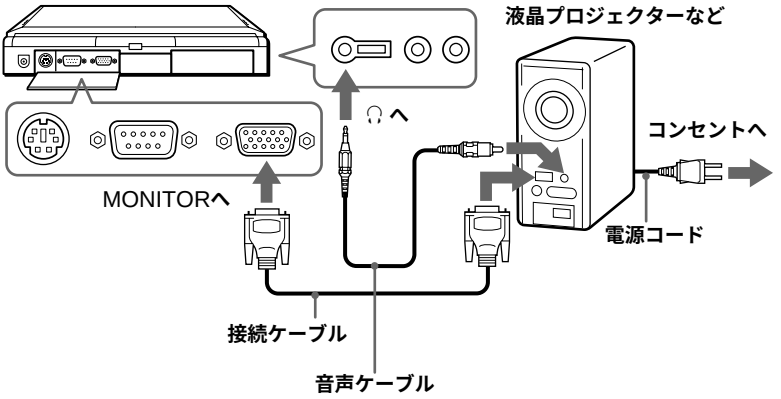
ご注意

MONITORコネクターにつないだ接続ケーブルをはずしてください。



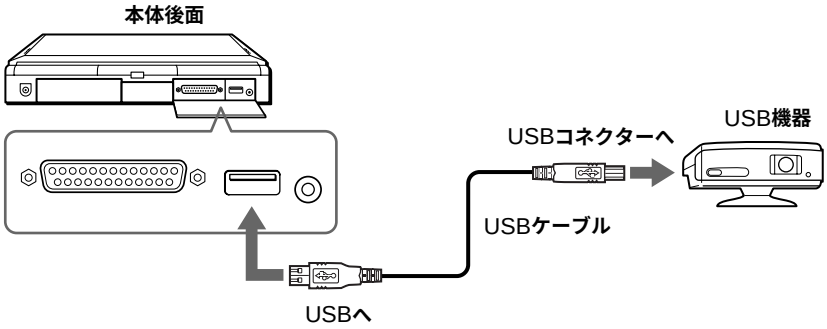
液晶プロジェクターをつなぐ

液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。
接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



USB機器をつなぐ

本体後面のUSBコネクターを使って、USB機器を接続することができます。



ご注意

- 詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- USB機器をご使用中であっても、「PowerPanel」のタイマー機能により、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入ります。USBマウスやUSBキーボードをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。
  工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。
  プロファイルの変更について、詳しくは「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込めます。ここではソニーデジタルスチルカメラと本機を赤外線で接続する方法と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

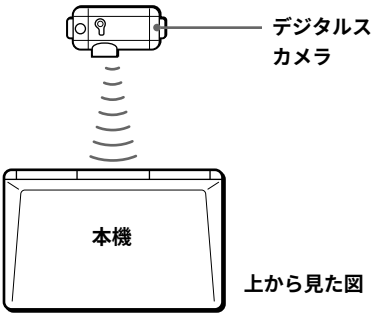
ご注意

- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 赤外線で接続するには、赤外線通信が使えるようにする必要があります。詳しくは「赤外線でデータをやりとりするには」（60ページ）をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラと赤外線で接続する

赤外線通信機能があるソニーデジタルスチルカメラでは、ケーブル接続は必要ありません。

1 赤外線通信ポートアダプターを使わずに、本機のま後ろにデジタルスチルカメラを置く。



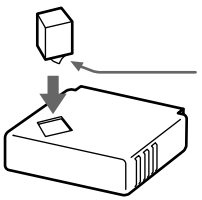
付属の赤外線通信ポートアダプターを使う

付属の赤外線通信ポートアダプターを使うと、デジタルスチルカメラを本機の横に置いたままでもデータのやりとりができます。

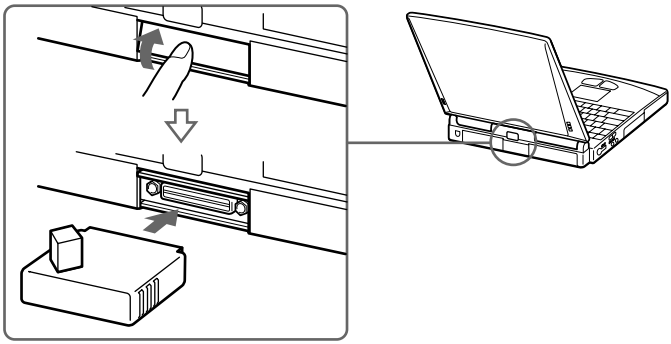
ご注意

- 赤外線通信ポートアダプターはソニーデジタルスチルカメラとの赤外線通信専用です。他の機器との赤外線通信は保証しかねます。
- 赤外線通信ポートアダプターは、ドッキングステーション使用時は使えません。

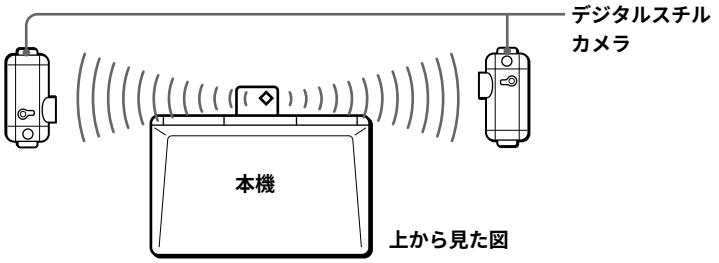
1 プリズムの両面テープをはがし、赤外線通信ポートアダプター本体のくぼみに貼り付ける。



2 本機後面にあるドッキングコネクターのふたを開き、赤外線通信ポートアダプターをドッキングコネクターに取り付ける。



赤外線通信を行うときは下記のように設置します。



画像を取り込む

本機に付属している「PictureGear SE」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、「PictureGear SE」の取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

- 画像を記録したフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる。
  ソニーデジタルスチルカメラのデジタルマビカなどで記録したフロッピーディスクの画像は、本機に付属の「PictureGear SE」ソフトウェアで取り込めます。
- デジタルスチルカメラと本機のSERIALコネクターをケーブルで接続する。
  接続するケーブルやソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用品をお使いください。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
  PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（89ページ）をご覧ください。

ご注意

お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

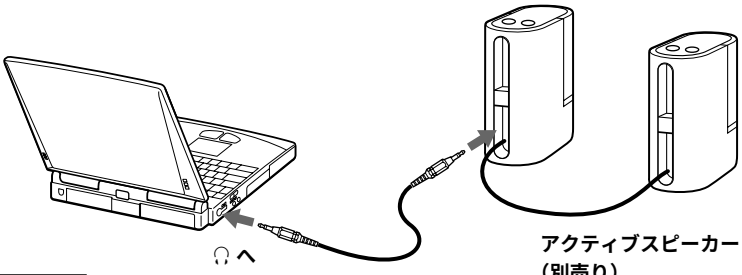
外部スピーカー／マイクをつなぐ

ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

外部スピーカーを接続する

スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

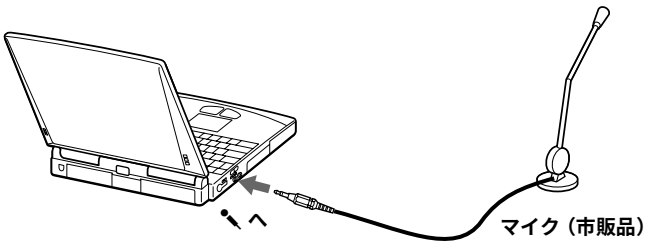


ご注意

- 電源を入れるときは、スピーカーの音量を最小にしてください。
- スピーカーの上にフロッピーディスクなどを置かないでください。スピーカーの磁気によりディスクに記録されているデータが破壊されることがあります。

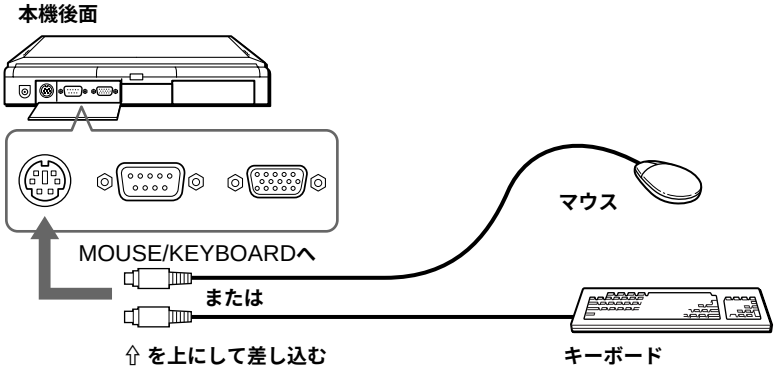
マイクをつなぐ

マイクの取扱説明書もあわせてご覧ください。



キーボード／マウスをつなぐ

PS/2準拠のキーボードやマウスを接続できます。



フルサイズのキーボードとマウスを同時に使用するときは、キーボードをMOUSE/KEYBOARDコネクターに、マウスをSERIALコネクターにつなぎます。

ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 本機の電源が入っている状態でPS/2デバイス（キーボードやマウス）を接続したり、はずしたりしないでください。誤動作の原因になります。
- マウスをSERIALコネクターにつなぐときは、そのマウスが「シリアルポート対応」のものかどうかを確認してからお使いください。シリアルポートに対応していないマウスを本機のSERIALコネクターにつないでも、動作しません。

ドッキングステーションに取り付けて使う

別売りのドッキングステーションを取り付けると、デジタルビデオカメラレコーダーなどより多くの周辺機器を接続できます。AC電源コードやプリンターなどを常にドッキングステーションにつないでおけば、接続の手間がはぶけ便利です。本機用のドッキングステーションは、PCGA-DB8/DH8のみです。

詳しくは、PCGA-DB8/DH8の取扱説明書をご覧ください。

本体を拡張する

メモリーを増設する

メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリーの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。
  メモリーの増設についてのご相談やご質問は、VAIOテクニカルレスポンスセンターまでご連絡ください。
- 別売りのソニー製メモリーモジュール以外では、正常に認識されなかったり、Windowsの動作が不安定になるものがあります。別売りのソニー製メモリーモジュール以外をお使いになる場合には、販売店またはメモリーモジュールの製造メーカーにご相談ください。

メモリーモジュールを取り付ける

別売りのメモリーモジュールを取り付けることにより、メモリーを増設します。本機にはメモリーモジュールを取り付けるスロットが1つあり、本機に内蔵されている64Mバイトのメモリーと合わせて、最大192Mバイトまでメモリーを増設できます。メモリーモジュールの取りはずしかたについて詳しくは、88ページをご覧ください。

メモリーモジュール取り扱い上のご注意

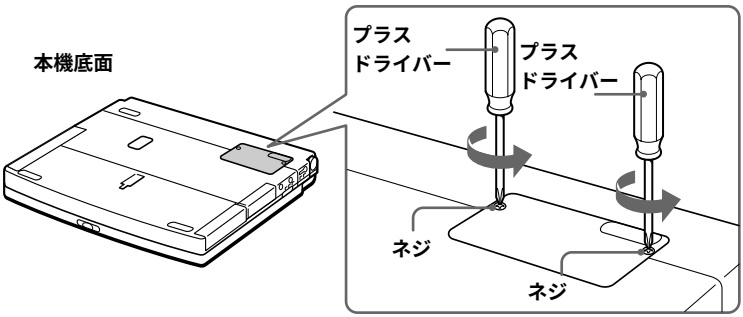
- 静電気でメモリーモジュールが破壊しないように、メモリーモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  ー メモリーを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
  ー 静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  ー メモリーモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリーモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 **本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。**

バッテリーも取りはずしてください。

2 **しばらくしてから本機を裏返し、底面のふたを開ける。**

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする恐れがあります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。



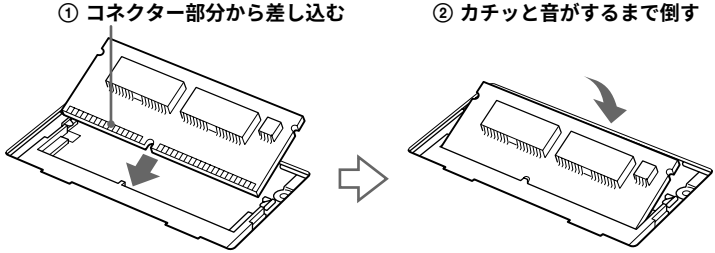
3 **メモリーモジュールを梱包から取り出す。**

本体の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリーモジュールを静電気防止袋から取り出します。

4 **メモリーモジュールを取り付ける。**

① メモリーモジュールのエッジコネクター部分を下にむけ、切り欠き部分をスロットの溝にあわせて、しっかりと差し込む。

② カチッと音がするまで、矢印の方向にメモリーモジュールを倒す。メモリーモジュールの両端が固定されます。

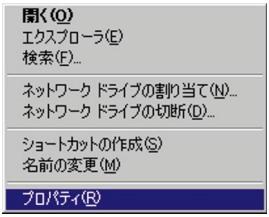


5 **ふたを元に戻す。**

ネジをしっかりと締めてください。

6 **本機の電源を入れる。**

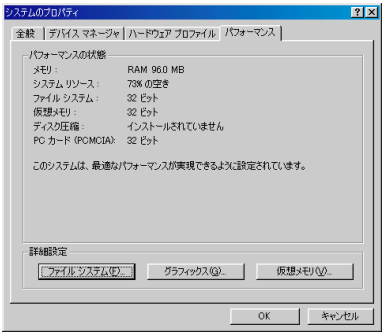
7 **［マイコンピュータ］を右クリックして、［プロパティ］をクリックする。**



「システムのプロパティ」が表示されます。

8 **［パフォーマンス］タブをクリックして、「メモリ」の項目が増設後のメモリー容量になっていることを確認する。**

メモリーの容量の表示が正しければ、メモリーの増設は完了しました。メモリーの容量が増えていないときは、本機の電源を切って、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



メモリーモジュールを取りはずす

1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。

バッテリーも取りはずしてください。

2 本機を裏返し、底面のふたを開ける。

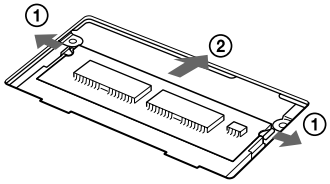
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする恐れがあります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。

3 メモリーモジュールを取りはずす。

本体の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、行ってください。

① メモリーモジュールを固定しているタブを、注意しながら同時に押し広げる。

② メモリーモジュールを矢印の方向に引き抜く。



4 ふたを元に戻す。

ネジをしっかりと締めてください。

PCカードを使う

本機には、PC Cardタイプ Iとタイプ II、タイプ IIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。タイプ Iとタイプ IIのカードは同時に2枚挿入できます。また 、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV (Zoomed Video) Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。PCカードは厚みによって、もっとも薄いタイプ Iからもっとも厚いタイプ IIIまでの3種類に分けられます。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード
データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード
MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード
イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA（ターミナルアダプター）カード
ISDN回線に接続できます。

ビデオカード
ビデオ機器を接続して、動画や静止画を取り込めます

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバーソフトを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバーソフトを入手してお使いください。
- 一部のPCカードを本機で使用して、システム サスペンドモードまたはシステム ハイバネーションモードを通常の動作モードに戻す操作を繰り返すと、一部のデバイスが使えなくなることがあります。その場合は、本機を再起動すると正常に動作します。

PCカードを取り付ける

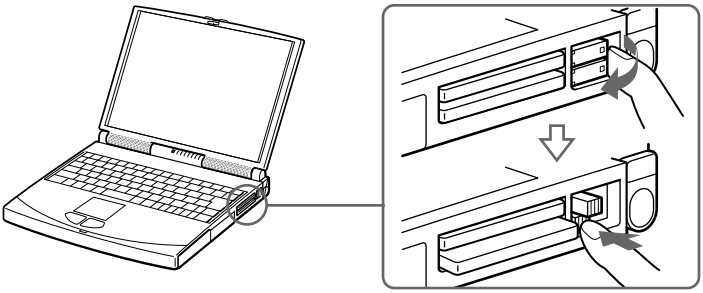
本機のPCカードスロットは2つあります。タイプIIIカードは下段のスロットに取り付けてください。タイプIとタイプIIカードとZV Port対応カードは、上下段どちらのスロットにも取り付けられます。
PCカードを取り付けるときに電源を切る必要はありません。

1 **PCカードスロットプロテクターを取り出す。**

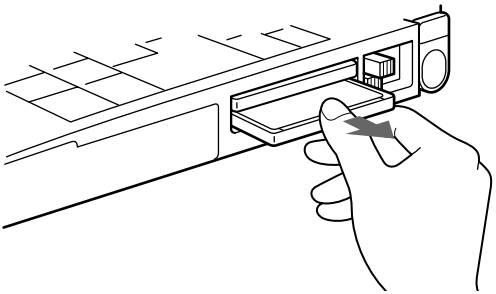
スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

① イジェクトボタンを起こしてから、ボタンを押す。

プロテクターが出ます。



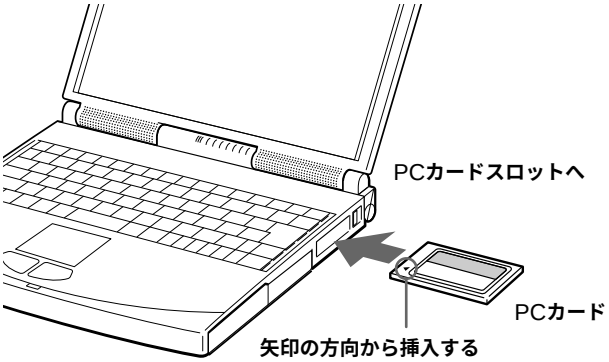
② プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。



タイプIIIカードをお使いになるときは、上下段ともプロテクターを取り出してください。

2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクターに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- PCカードによっては、Sony Notebook Setupを起動し、使用しないデバイスを一時的に無効にする必要のある場合があります。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「デバイスを一時的に使用できないようにする」をご覧ください。
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバーをお使いください。
- 「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバーを削除し、再度インストールしてください。

PCカードを取り出す

ご注意

本機の電源が入っているときにカードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは、手順1〜4の操作は不要です。

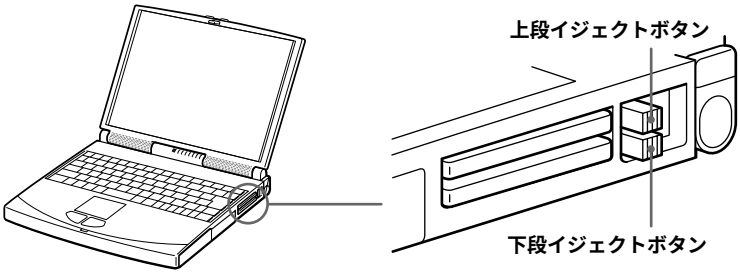
1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［PCカード］をダブルクリックする。**

3 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に［停止］ボタンをクリックする。**

4 **「このデバイスは安全に取りはずせます。」と表示されたら［OK］ボタンをクリックする。**

5 **PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。**
カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いたあとは、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

第3章 その他

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをつくなどして力を加えないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、

ほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

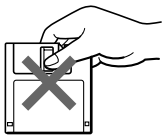
ハードディスクドライブを取りはずさないでください

故障の原因になります。

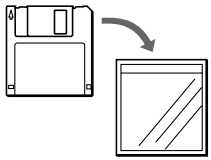
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



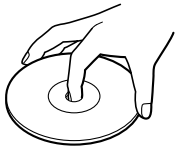
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



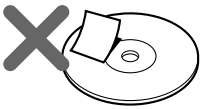
CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプターについて

本機には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACアダプターを海外旅行者用の「電子式変圧器」などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

コンピューターウィルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスクの空き容量が急に少なくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウィルスチェックをする。
- 本機にはコンピュータウィウス検査・ウィルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。
  使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  また、ウィルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。
  インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

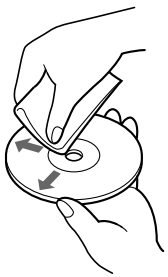
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
  化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

リモコンプラグのお手入れについて

リモコンプラグが汚れていると雑音の原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、リモコンの先端のプラグ部をときどき柔らかい布でからぶきしてください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

VAIOテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブック コンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCG-868**または**PCG-864、PCG-862、PCG-861
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

主な仕様

本体

プロセッサー

モバイルPentium® II プロセッサ
300 MHz (PCG-868)、266 MHz (PCG-864)、233 MHz (PCG-862/861)

チップセット

Intel® 440BXチップセット

2次キャッシュ

512 Kバイト

メインメモリー

64 Mバイト (SDRAM)
最大192Mバイトまで拡張可能

メモリースロット

SODIMMスロット (1)

グラフィックアクセラレーター

128ビット高速グラフィックアクセラレーター
NeoMagic Magic Media 256AV (NM2200) (PCG-868/864)
NeoMagic Magic Graph 128XD (NM2160) (PCG-862/861)

ビデオメモリー

2.5 Mバイト (ビデオチップ内蔵、PCG-868/864)
2.0 Mバイト (ビデオチップ内蔵、PCG-862/861)

液晶ディスプレイ表示モード

1,024 × 768ドット (約1,677万色[1]、PCG-868/864)
1,024 × 768ドット (65,536色、PCG-868/864/862)
800 × 600ドット (約1,677万色[1])
640 × 480ドット (約1,677万色[1])
[1] グラフィックアクセラレーターのディザリングにより実現

外部ディスプレイ表示モード

1,280 × 1,024ドット (256色、PCG-868/864)
1,024 × 768ドット (約1,677万色、PCG-868/864)
1,024 × 768ドット (65,536色)
800 × 600ドット (約1,677万色)
640 × 480ドット (約1,677万色)

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト／1.2 Mバイト／720 Kバイト

ハードディスクドライブ

6.4Gバイト (PCG-868) [2]
4.0Gバイト (PCG-864/862/861)
[2] C:ドライブ 4.1Gバイト、D:ドライブ 2.3Gバイト (工場出荷時)

CD-ROMドライブ

最大24倍速、平均17倍速
マルチセッション対応、12／8 cm対応トレイタイプ

外部接続

MONITORコネクター
アナログRGB、ミニD-SUB15ピン (1)
FDD/PRINTERコネクター
ECP、D-SUB25ピン (1)
MOUSE/KEYBOARDコネクター
PS／2、ミニDIN6ピン (1)
SERIALコネクター
RS-232C、D-SUB9ピン (1)
USBコネクター
USB4ピン (1)
VIDEO OUTコネクター
NTSC／PAL対応、ミニジャック (1)
MIC入力コネクター
モノラルミニジャック (1)
ライン入力コネクター
ステレオミニジャック (1)
ヘッドフォン出力コネクター
ステレオミニジャック、リモコン機能対応 (1)
モデムコネクター
モジュラージャック (1)
赤外線通信ポート
IrDA 1.1、最大4 Mbps (1)
ドッキングコネクター
専用コネクター、200ピン (1)

PCカードスロット

Type III × 1、Type I／II × 2、ZV portおよびCardbus対応

オーディオ機能

SoundBlasterPro互換 (16ビットステレオ)、ステレオスピーカー

内蔵ファックスモデム

V.90およびK56flex対応
データ受信時最大56kbps
データ送信時最大33.6kbps
ファックス送受信時最大14.4kbps
ボイス機能対応、ハンズフリー電話機能対応

ポインティングデバイス

タッチパッド

電源・その他

電源
ACアダプターまたはバッテリーパック
バッテリー駆動時間
約2～5時間（1本）、約4～10時間（2本）
動作温度
5℃～35℃（温度勾配10℃／時以下）
動作湿度
20%～80%（結露のないこと）
保存温度
–20℃～60℃（温度勾配10℃／時以下）
保存湿度
20%～90%（結露のないこと）
外形寸法
約297 × 38[3] × 236 mm（幅／高さ／奥行き）
質量
約2.4 kg（バッテリー1本装着時）
[3] 最薄部

ACアダプター

電源
AC 100～240 V、50/60 Hz
（付属電源コードはAC100V用）
消費電力
最大80 W
出力電圧・電流
最大19.5 V、3.3 A
動作温度
5℃～35℃（温度勾配10℃／時以下）
動作湿度
20%～80%（結露のないこと）
保存温度
–20℃～60℃（温度勾配10℃／時以下）
保存湿度
20%～90%（結露のないこと）
外形寸法
約60 × 30 × 125 mm（幅／高さ／奥行き）
質量
約300 g

バッテリーパック

出力電圧・容量
14.8 V、2600 mAh
動作温度
5℃～35℃（温度勾配10℃／時以下）
動作湿度
20%～80%（結露のないこと）
保存温度
–20℃～60℃（温度勾配10℃／時以下）
保存湿度
20%～90%（結露のないこと）
外形寸法
約77 × 19 × 141 mm（幅／高さ／奥行き）
質量
約360 g

付属品・別売り品

付属品

「はじめにお読みください」の「付属品を確かめる」をご覧ください。

別売り品

ACアダプター
PCGA-AC71
リチャージャブルバッテリーパック
PCGA-BP71
ドッキングステーション
ネットワークドッキングステーション
PCGA-DB8
パーソナルドッキングステーション
PCGA-DH8
メモリーモジュール
32Mバイト増設メモリーモジュール
PCGA-MM732

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

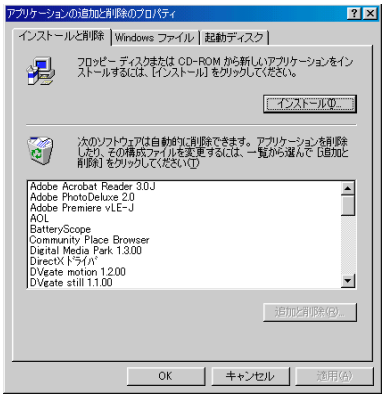
ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする

ハードディスクの空き容量が足りないために、新しいソフトウェアをインストールできないときは、すでにインストールされているソフトウェアをハードディスクから削除（アンインストール）できます。

ソフトウェアをアンインストールする

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせて［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」が表示されます。

2 **［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックする。**
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。



3 **［インストールと削除］タブをクリックする。**

4 **削除したいソフトウェアをクリックしてから、［追加と削除］をクリックする。**
アンインストーラーが起動し、「ファイル削除の確認」が表示されます。

5 **「はい」をクリックする。**
選んだソフトウェアがアンインストールされます。

ソフトウェアを再インストールする

アンインストールしたソフトウェアを再インストールすることもできます。
本機に付属しているソフトウェアは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM（以降、リカバリCDと略します）を使って再インストールします。

ソフトウェアによって再インストールのしかたが異なります

- ソニー製のソフトウェアの場合
  詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製以外のソフトウェアの場合
  「リカバリCDで本機を再セットアップする」（104ページ）をご覧ください。

ご注意

リカバリCDを使う前に、大切なデータはバックアップをとっておいてください。

リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM（以後、リカバリCDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイル保存されることを保証するものではありません 。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。
  Microsoft Windows 98ファーストステップガイドは大切に保管してください。

準備する

1 **CD-ROMドライブを本機に取り付ける。**
詳しくは、「CD-ROMを使う」(45ページ) をご覧ください。
本機をドッキングステーションに装着しているときは、ドッキングステーションを取りはずします。

2 **本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。**

再セットアップする

以下の手順を行います。

1 **付属のリカバリCD (PCG-868をお使いの場合は、「プロダクトリカバリ CD-ROM Vol.1 of 2」) をCD-ROMドライブに入れてから、[スタート] ボタンをクリックし、[スタート] メニューの [Windowsの終了] をクリックする。**

2 **「電源を切れる状態にする」をクリックして選択し、[OK] をクリックする。**

3 **F2キーを押しながら、電源を入れる。**
BIOSセットアップ画面が表示されるまで、F2キーを押し続けてください。

4 **Escキーを押す。**

5 **↑または↓キーで [Get Default Values] を選択し、Enterキーを押す。**

6 **「Load default configuration now?」と表示されるので、「YES」を選択して、Enterキーを押す。**

7 **Enterキーを押す。**

8 **「Save configuration changes and exit now?」と表示されるので、「YES」を選択して、Enterキーを押す。**
リカバリCDから本機が再起動します。

9 **画面の指示にしたがって操作する。**
操作を続けるかどうかを聞かれたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例： ⊞ +F ➡Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	機能
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞ +E	エクスプローラー[1)]を表示します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行…］を選んだときと同じです。

1) コンピューターの内容（ファイルやフォルダー）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fn + (Esc) ➡Fnキーを押しながらEsc（エスケープ）キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn+ (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。（システム サスペンドモード） ドッキングステーション装着時には使用できません。
Fn+ (F2)	使用電源の状況を表示します。 例) **AC電源で使用中** **バッテリーを充電中**
Fn+ (F3)	本機の内蔵スピーカーの音声を入／切します。
Fn+ (F4)	本機の内蔵スピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。このときに↑または→キーを押すと大きくなり、←または↓キーを押すと小さくなります。（64段階で調節できます）。
Fn+ (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。このときに↑または→キーを押すと明るい画像になり、←または↓キーを押すと暗い画像なります。（9段階で調節できます）。
Fn+ LCD / VGA (F7)	MONITORコネクターに接続したコンピューター用ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→…
Fn+ LCD / TV (F8)	VIDEO OUTコネクターに接続したテレビなどの外部モニターと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部モニター同時表示→液晶ディスプレイのみ…
Fn+ (F9)	充電されたバッテリーが本機に取り付けられているときに、電源の入った状態でドッキングステーションから取りはずしできるようにします。

組み合わせ	機能
Fn+ (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやメモリーへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。（システム ハイバネーションモード） ドッキングステーション装着時には使用できません。
Fn+E	本体のマルチパーパスベイにCD-ROMドライブを取り付けているときは、CD-ROMをイジェクトします。ドッキングステーションにCD-ROMドライブを取り付けているときは、働きません。
Fn+F	画面の解像度を液晶パネルの解像度より低くしているとき、液晶ディスプレイの表示を拡大／縮小することができます。
Fn+D	本機の画面が暗くなり、ビデオスタンバイ状態になります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。

故障かな？と思ったら

VAIOテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターまたはお買い上げ店にご相談ください。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、かならず「電源を入れる」（24ページ）の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。
他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

症状	原因／対策
電源が入らない。	• 本機とACアダプター、ACアダプターと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。 • バッテリーが正しく装着されているか確認する。 • バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。 • 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。 • 本機からACアダプターとバッテリーパックを1度はずしてから、再度ACアダプターを接続し、電源を入れる。 • 内蔵バックアップバッテリーが消耗している。ACアダプターをつないだまま十数分放置してから、電源を入れ直す。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	• ビデオスタンバイ状態になっている。いずれかのキーを押す。 • 外部モニターに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
テレビの画面が異常に暗い。	MONITORコネクターに接続ケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
テレビに何も表示されない。	• ケーブルが正しく接続されているか確認する。 • 画面の色数がTrue Color（24ビット）のときは、テレビに画像を表示できません。

症状	原因／対策
内蔵モデムからダイヤルできない。	• お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。（72ページ） PBX回線をお使いの場合は、74ページの設定を行ってください。 • 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。（72ページ） • テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。（73ページ） • 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。 • 115ページの「モデムの設定」をご覧ください。
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	• 115ページの「ダイヤルの設定」をご覧ください。
携帯電話で接続できない。COMポートの設定を変えたい。	• 117ページの「COMポートの設定」をご覧ください。
インターネットに接続できない。	• キーを押して［スタート］メニューを表示させ、［プログラム］→［アクセサリ］→［インターネットツール］の順に選択し、［インターネット接続］をクリックして、設定を確認する。
CD-ROMが再生できない。	• CD-ROMドライブが正しく装着されているか確認する。（45ページ） • CD-ROMが正しくトレイに置かれているか確認する。（46ページ） • CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 • 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直してから、もう1度再生してみる。 • 再生音量を確認する。（67ページ）
CD-ROMの再生時、音がとぎれる。	• CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。 • 再生用のバッファの量を調整する。詳しくは、Windows 98のヘルプをご覧ください。

症状	原因／対策
CD-ROMが取り出せない。	47ページをご覧ください。
フロッピーディスクが取り出せない。	42ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	• ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選び、Enterキーを押す。 • 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらして電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
フロッピーディスクが読めない。	フロッピーディスクドライブを外付けドライブとして使うときは、2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書きはできません。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。 その後、キーボードのいずれかのキーを押す。
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	• フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（43ページ） • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

症状	原因／対策
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（43ページ）
スピーカーから音が出ない。	• 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。 • 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げる。（107ページ） • 再生音量を確認する。（67ページ） • 外部スピーカーをお使いの場合は、本機とスピーカーが正しく接続されているか確認する。 • 外部スピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。 • ∩コネクターにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。	「システムのプロパティ」画面の「デバイスマネージャ」タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lockキーを押して、Num Lockランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「 ^ 」を押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（34ページ）をご覧ください。
全角の「〜」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し、「〜」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。

症状	原因／対策
指がタッチパッドの端まできてしまい、これ以上動かせない。	指をいったんタッチパッドからはなし、中央に戻す。
指がタッチパッドに触れただけで、クリックしてしまう。	タッチパッドの設定を変更してください。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「タッチパッドの設定を変更する」をご覧ください。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」（104ページ）をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。	CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して再起動する。
電源が切れない。	• CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して再起動する。うまく再起動できないときは、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらす。 • ACアダプターとバッテリーパックをはずす。
PCカードが使えない。	• Windows 98対応でないPCカードは使えないことがあります。 • IRQが足りない。Sony Notebook Setupで、現在使用していないデバイスを一時的に使用できないようにする。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「デバイスを一時的に使用できないようにする」をご覧ください。 • PCカードを2枚取り付けるときは、Sony Notebook Setupで、現在使用していないデバイスを一時的に使用しないようにする。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「デバイスを一時的に使用できないようにする」をご覧ください。
ファンの音が大きい。	「PowerPanel」の「放熱制御の方法」を「サイレント」に変更する。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
プリンターで印刷できない。	パラレルポートのモード設定を変更する。詳しくは、「PCG-868/864/862/861」のオンラインマニュアルの「パラレルポートの設定を変更する」をご覧ください。

症状	原因／対策
内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。	ハードディスクのアクセス音などが録音されてしまうためで、故障ではありません。
Smart Label（ボイスメモ）で音声が録音できない。	録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。 **1** タスクトレーの をダブルクリックする。 **2**［オプション］メニューから［プロパティ］を選ぶ。 **3**「音量の調整」の［録音］と「表示するコントロール」の［Microphone］をチェックし、［OK］をクリックする。 **4**「Microphone」の［選択］がチェックされているか確認する。 チェックされていないときは、チェックする。

モデムの設定

モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 **［検出結果］タブをクリックする。**

4 **［COM2］を選択し、［詳細情報］をクリックする。**
［詳細情報...］ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース（IRQなど）が他のデバイスと競合していないか確認します。
「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で、デバイスのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう1度組み込み直します。
「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で、［モデム］の中の［Sony Internal Modem］を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定

うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラーケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。
予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**

2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**

3 **［Sony Internal Modem］を選択し、［プロパティ］をクリックする。**

4 **［最高速度］に遅めの数値（標準は115200）を選ぶ。**

5 **少しずつ数値を小さくして試す。**

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。**
2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**
3 **［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。**
4 **［接続］タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**
5 **［OK］をクリックする。**
6 **「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。**

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

1 **［マイコンピュータ］をダブルクリックし、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**
2 **接続先のアイコンを右クリックし、［プロパティ］をクリックする。**
3 **契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。**
   特に、次の点を重点的に確認してください。
   - ［全般］タブの［電話番号］の設定（ISDN用の回線が別番号になっていることもあります）
   - ［サーバーの種類］タブの設定
   - ［サーバーの種類］タブの［TCP/IP設定］ボタンでの設定

プロトコルの設定の確認

1　［スタート］ボタンをクリックし、［設定］を選択して［コントロールパネル］をクリックする。

2　［ネットワーク］アイコンをダブルクリックする。

3　契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［現在のネットワークコンポーネント］に組み込まれているコンポーネント
- 各コンポーネントのプロパティの設定

COMポートの設定

本機では、標準状態でCOM1～COM4までが使われています。
新しい周辺機器（PCカード等）を接続するとCOM5以降が割り当てられることがありますが、ソフトウェアによってはCOM5以降をサポートしていないものがあり、正しく周辺機器等を使用できない場合があります。このような場合には、割り当てられているCOMポートの設定を変更します。

COMポートの設定を変更するためには、次の（1）、（2）の方法があります。

（1）使用しないデバイスを無効にする

使用しないデバイスを無効に設定し、そのデバイスが使っていたCOMポートをほかの周辺機器が使用できるよう解放します。

1　［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブックユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。

2　［使用デバイス］タブをクリックし、以下のデバイスのうち使わないもののチェックを外す。

- ［シリアル通信ポート（COM1）］
- ［内蔵モデム］
- ［赤外線通信ポート］

3　本機の電源を切り、周辺機器を接続してから周辺機器と本機の電源を入れる。
空いているCOMポートが周辺機器に割り当てられます。正しく設定されているか、［デバイスマネージャ］で確認してください。

(2) COM3を空ける

COM3を空け、増設する周辺機器にCOM3を割り当てます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブックユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
2 **［プロパティ］タブをクリックし、［高度な設定］をクリックする。**
3 **［赤外線通信］タブをクリックする。**
4 **［すべての方式用］の［I/Oアドレス］を「3E8h-3EFh」以外のリソース競合がないアドレスに変更する。**
5 **［OK］をクリックする。**

ご注意

この設定を行うと、アプリケーションによってはまれに赤外線通信が正常に動作しないことがあります。

索引

五十音順

ア行

アンインストール　102
インストール
　アンインストールする　102
　再インストールする　103
インターネット
　インターネットとは　54
　インターネットを楽しむ　54
ウェイトセーバー　52
液晶ディスプレイ　24, 94, 100, 107
液晶プロジェクター
　液晶プロジェクターをつなぐ　78
音楽CD
　CDを再生する　65
オンラインマニュアル　16

カ行

外部スピーカー
　外部スピーカーをつなぐ　83
外部ディスプレイ
　外部ディスプレイをつなぐ　77
外部マイク
　外部マイクをつなぐ　83
キーボード
　キーボードショートカット　106
　キーボードを使う　30
　キーボードをつなぐ　84
クリック　29
　ダブルクリック　29
　右クリック　29
結露　94
コンピューターウィルス　96

サ行

再起動　27
シリアルコネクター　63
スピーカー
　外部スピーカーをつなぐ　83
　内蔵スピーカー　18, 107
赤外線
　赤外線通信ポート　21, 59, 81
　赤外線データ通信　59
赤外線通信ポートアダプター　81
ソフトウェア
　さぱり　68
　不正コピー禁止について　97
　ワードパッド　32
　Adobe PhotoDeluxe　14
　BatteryScope　14
　Digital Media Park　14, 65
　DVgate motion　68
　DVgate still　68
　Intellisync for Notebooks　61
　Navin' You Lite　69
　PictureGear SE　14, 68, 82
　PowerPanel　5, 14
　VirusScan　97

タ行

ターミナルアダプターカード　89
タッチパッド
　クリックする　29
　スクロールする　29
　タッチパッドを使う　28
　ダブルクリックする　29
　ドラッグする　29
　右クリックする　29
ダブルクリック　29
データ
　書き込み禁止にする　43
　バックアップをとる　97
　やりとりする　59
ディスプレイ
　外部ディスプレイをつなぐ　77
ディスプレイパネル
　開く　24
デジタルスチルカメラ
　デジタルスチルカメラから画像を取り込む　14, 80
　デジタルスチルカメラを使う　80
デジタルビデオカメラレコーダー
　デジタルビデオカメラレコーダーから画像を取り込む　14
テレビ
　テレビをつなぐ　78
電源
　電源を入れる　24
　電源を切る　26
電話回線
　電話回線のコンセントの種類　75
　電話回線をつなぐ　72
トーン式ダイヤル　72
ドッキングステーション　84
ドラッグ　29

ナ行
内蔵ハードディスク　19
内蔵モデム
　内蔵モデムを電話回線につなぐ　72
日本語入力　32
ネットワーク
　ネットワークにつなぐ　63
ネットワークカード　63, 89

ハ行
ハードディスク
　取り扱いについて　94
バックアップをとる　95
バッテリー
　充電する　53
　セカンドバッテリー　52
　取り付ける　51
　取りはずす　51, 53
　ランプ　50
バッテリーベイ　19, 51
パルス式ダイヤル　72
ビデオCD　65
ビデオカード　89
プリンター
　プリンターをつなぐ　76
プロダクト リカバリ CD-ROM　104
フロッピーディスク
　入れる　42
　使用できるフロッピーディスク　43
　初期化する　42
　データを書き込み禁止にする　43
　取り扱いについて　95
　取り出す　42
フロッピーディスクドライブ
　外付けドライブとして使う　40
　取り付ける　40
　取りはずすには　41
　内蔵ドライブとして使う　41
プロバイダー　55
ヘッドホン　66
ポインター　28

マ行
マイク　18
　マイクをつなぐ　83
マウス
　マウスをつなぐ　84
マウスウェア　5
マルチパーパスベイ　20, 41, 45
右ボタン　28, 29
メモリー　100
　増設する　85
メモリーカード　64, 89
メモリーモジュール
　取り付ける　85
　取りはずす　88
文字入力　32
モジュラージャック　73
モデム　72, 115

ラ行
リカバリCD
　本機を再セットアップする　104

ワ行
ワードパッド　32

アルファベット順

A
ACアダプター　24
AC電源　24
Adobe PhotoDeluxe　14
AMS機能　67

B
BatteryScope　5，14

C
CD-ROM
　入れる　46
　お手入れ　98
　使用できるディスク　48
　取り扱いについて　96
　取り出す　47
CD-ROMドライブ
　取り付ける　45
　取りはずす　45
CPU　100

D
Digital Media Park　14，65
DVgate motion　68
DVgate still　68

I
Intellisync for Notebooks　61
IrDA　59
ISDN　7，57

L
LAN　63

M
MS-IME98　33

N
Navin' You Lite　69

P
PBX　7，74
PCカード
　PCカードとは　89
　PCカードを使う　89
　PCカードを取り出す　92
　PCカードを取り付ける　90
PHS　58
PictureGear SE　14，68，82
PowerPanel　5，14
PS/2　84

S
SCSIカード　89
Sony Notebook Setup　5

T
TAカード　89

U
USB　79

V
VirusScan　97

W
Windows 98　25

この説明書は再生紙を使用しています。

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- i.LINKはIEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様、はi.LINKに準拠した商品につけられるロゴです。i.LINKとは商標です。
- K56flexはLucent Technologies社とRockwell International社の商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは
VAIOテクニカルレスポンスセンターへ
● 0466-30-3000
カスタマー登録、一般的なお問い合わせは
VAIOカスタマー専用デスクへ
● 03-3584-6651

Sony online　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan